

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生確保の見通しおよび申請者としての取り組み状況	1
① 学生確保の見通し	1
ア 定員充足の見込み	1
○ 入学定員設定の考え方	1
○ 入学定員を充足する見込み	2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
○ 既設データサイエンス学部の志願動向	2
○ 本学実施の調査の結果	3
○ 志願者数及び入学希望者数の推定	4
○ アスリート学生の受け入れ	6
○ 既設学科における定員充足状況及び志願者数・志願倍率の推移	6
○ 競合大学の志願動向	7
○ 人口動態に基づく見通し	7
○ 受験率および歩留率の推移	8
ウ 学生納付金の設定の考え方	8
② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	9
○ 入試上の基本的な取り組み	9
○ データサイエンス学部浸透に向けた取り組み	9
○ 多様な学生の受け入れに向けた取り組み	10
○ 学業支援に向けた取り組み	10
③ まとめ	11
(2) 人材需要の動向等社会の要請	12
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	12
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な証拠	12
○ データサイエンス人材に対する社会的ニーズの現状	12
○ データサイエンス人材に対する社会的ニーズに関する今後の見通し	13
○ 本学が育成するデータサイエンス人材に対する社会的需要	15
○ 本学が育成するデータサイエンス人材に対する地域的需要	15
○ 全般的な人材需要と既設学科における人材輩出実績	16
③ まとめ	16
資料目次	17

(1) 学生確保の見通しおよび申請者としての取り組み状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

○ 入学定員設定の考え方

入学定員は240名と設定した。

我が国では、数理・情報的なデータサイエンティスト・エンジニア、広範な価値創造を担う経済・ビジネス系データサイエンティストいずれもが著しく不足している。IT企業などにおいて先端的な技術開発を担うエンジニアだけではなく、とりわけ人材不足が叫ばれているのが一般の企業においてデータを用いて経済価値の創造を行う人材である。

これは、「設置の趣旨等を記載した書類」の「①設置の趣旨及び必要性」でも述べたとおり、IT企業ではないサービス業の一般企業に対する内閣府調査において、「データ利用を行う人材が不足している」とする事業者が過半を占めていることから確認できる。

本データサイエンス学部は、「経済・ビジネス系の価値創造」に力点を置くデータサイエンス学部であり、一般の企業においてデータを用いて経済価値の創造を行う人材を養成する。このような人材は、先端的な技術開発を担うエンジニアとは異なり、幅広い業種の企業の中で様々な業務に携わりながらデータ分析を担うものであり、その膨大な潜在需要に応えるためにはできるだけ多くの人材を輩出することが求められている。

実際「(2) 人材需要の動向等社会の要請」で詳しく述べるとおり、本学が実施した企業を対象とした調査においても、本学データサイエンス学部の卒業生を採用したいと思うと回答した企業における毎年の想定採用人数は480名を超える。

今後、18歳人口が減少していく我が国の人口動態のもとでは、進学率が多少上昇しても日本全体で大学の志願者数は減少していかざるを得ないが、それはマクロの話であり、個別の学部への需要は別物である。企業における潜在需要の大きさに加え、データサイエンスに対する社会的な関心の高さ等を踏まえると、本学データサイエンス学部では今後とも定員240名を上回る志願者を確保できると考えられる。

本データサイエンス学部は、「経済・ビジネス系価値創造」に力点を置くデータサイエンス学部である。私立大学の経済学部・経営学部の学生定員は平均374名（平成31年度私立大学・短期大学等入学志願動向 日本私立学校振興・共済事業団）であるが、言うまでもなく経済・ビジネス系とは言えデータサイエンス学部を卒業する学生は、データに関する高い専門的知識・技能を修得する必要がある。本学部の教員組織はデータサイエンスや経済学等を専門とする専任教員25名から構成され、専任教員の指導の下、学生が体系的に学ぶことのできる教育研究環境を設定している。こうした環境で丁寧な指導の下、数理・情報的なデ

ータサイエンティストとしての基本的なスキルを備えた質の高い人材の育成を行っていくため、入学定員は経済系学部の平均との対比で大幅に抑制し、240名とした。

○ 入学定員を充足する見込み

データサイエンス学部への社会的関心は極めて高い。既設のデータサイエンス学部は、いずれも高倍率が維持されており、志願者数の伸びは、全国の大学全体で見ても高い水準にある。

次項「定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」で詳細に述べる通り、本学が実施した高校生対象に進学意向を尋ねる調査でも、データサイエンス学部への関心は高く、本学が設置を予定するデータサイエンス学部への入学希望者が累計 262 名存在することが示された。今回実施した調査は、限られた少数のサンプルを対象としてのものであるが、オンライン調査の回答状況から推定した高校 3 年生における本学の志願者数は 1,049 名、入学希望者数は 782 名となる。この推計の詳細については、次項で述べる。

さらに、本データサイエンス学部には、アスリート学生の入学も期待できる。今回のデータサイエンス学部設置に伴い、既設学部より計 40 名の定員移動を行うが、これは、既設学部における強化クラブ生の枠となっている。現在スポーツデータサイエンスが注目されている通り、本学部のカリキュラムにおいては価値創造科目群の中にスポーツデータサイエンスの授業が用意されているが、このようなスポーツデータサイエンスを学ぶ機会のアスリートにとっても需要があると考えられる。既設学部における 40 名の定員枠は、これまで常に安定的な志願者確保の実績があり、データサイエンス学部においても、アスリートに向けた枠を新たに設置することで、安定的に志願を見込むことができる。

なお本学部の特色は、経済・ビジネスの価値創造に力点を置いたデータサイエンスであるが、本学経済学部における志願倍率は過去 5 年間平均で 6.8 倍となっており、十分な志願実績がある。

以上を踏まえると、本データサイエンス学部では、入学定員 240 名をはるかに上回る入学希望者を確保できる。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

○ 既設データサイエンス学部の志願動向

今回設置しようとしているデータサイエンス学部は、まだ全国でも設置数が少なく、現時点で滋賀大学、横浜市立大学、武蔵野大学の 3 校である。各大学におけるデータサイエンス学部の志願動向をみると（資料 1）、いずれも定員に対する志願者の割合は高くなっている。

実際、令和元（2019）年度の大学入試において、最も志願者が増えた大学は国公立大学では滋賀大学（述べ志願者数対前年 1,145 名増）、私立大学では武蔵野大学（述べ志願者数対前年 15,267 名増）であることが明らかになっている。これは、データサイエンス学部の存在

によるものと考えられる。このように、今後 18 歳人口が減少していく中であっても、データサイエンス学部への潜在的需要は極めて高いものと考えられる。

○ 本学実施の調査の結果

高校生の本学データサイエンス学部に対する進学意向を調査するため、高校生を対象に「立正大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科（仮称、設置構想中）に関するアンケート」を 3 度実施した。いずれも、本学のデータサイエンス学部構想の資料として「立正大学 データサイエンス学部 概要」を提示した上、データサイエンス学部への受験・入学意向を尋ねたものである。

第 1 は、令和元（2019）年 12 月に、立正大学附属立正中学校・高等学校に在籍する高校 2 年生に対して実施した調査である（資料 2）。その結果、344 名からの有効回答数が得られ、有効回答数の内、データサイエンス学部を「受験したいと思う」と回答した生徒の数は 144 名（41.9%）、「入学したいと思う」と回答した生徒の数は 143 名（41.6%）であった。この割合は、文系理系で大きな差はなく、自らの得意分野にかかわらず、多くの生徒がデータサイエンス学部への受験・入学を希望していることが確認された。

第 2 は、本学への資料請求やオープンキャンパスへの参加等で個人情報が登録されている高校生 19,906 名に対し令和 2（2020）年 8 月に実施した調査である（資料 3）。調査はオンラインで実施され、有効回答 397 名（高校 1 年生 23 名、2 年生 51 名、3 年生 313 名、その他 10 名）のうち、データサイエンス学部を「受験したいと思う」と回答した生徒の数は 133 名（33.5%）、「入学したいと思う」と回答した生徒の数は 203 名（51.1%）であった。また、高校 3 年生に限定しても、「受験したいと思う」と回答した生徒の数は 97 名（31.0%）、「入学したいと思う」と回答した生徒の数は 162 名（51.8%）であった。ただし、この「入学したいと思う」と回答した者の中には、「受験したいと思わない」と回答した者や、すでに本学が実施している別の調査に回答済みの者が含まれていた。これらの回答者を除いても「入学したいと思う」と回答した者は 84 名（26.8%）となっている。

第 3 は、株式会社マクロミルへの委託により令和 2（2020）年 8 月に実施した高校生対象のオンライン調査である（資料 4）。この調査では、全国の高校生を対象に実施したものであり、有効回答 1,030 名（高校 1 年生 231 名、2 年生 374 名、3 年生 422 名、その他 3 名）のうち、データサイエンス学部を「受験したいと思う」と回答した生徒の数は 190 名（18.4%）、「入学したいと思う」と回答した生徒の数は 233 名（22.6%）であった。また、高校 3 年生に限定しても、「受験したいと思う」と回答した生徒の数は 59 名（14.0%）、「入学したいと思う」と回答した生徒の数は 79 名（18.7%）であった。このうち、本学が実施した第 2 の調査と同様「受験したいと思わない」と回答した者や、すでに本学が実施している別の調査に回答済みの者を除いても、「入学したいと思う」と回答した者は 35（8.3%）名であった。

以上を合計すると、付属校から 143 名、本学が実施したオンライン調査で 84 名、委託に

よる調査で 35 名と、入学希望者は合計で 262 名となり、これは本学部の定員である 240 名を上回る。

なお、委託調査への回答者のうち、「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した者の割合を学年別に集計した結果、3 年生 (10.4%)、2 年生 (12.8%)、1 年生 (22.9%) の順に、その割合は高くなっていった。つまり、学年が若くなるほどデータサイエンスへの関心は高まっていることが示された。このことは、今後データサイエンスへの需要がますます高まっていくことを間接的に裏付けるものと言える。従って、今回受験することになる高校 3 年生だけでなく、次年度以降の受験においても、志願者の確保は可能である。

以上記載した調査は、高校生対象の調査であるが、高校を対象とした調査も実施している。令和元 (2019) 年には、本学に比較的入学者の多い、高校の進路指導教員を対象に「入学者選抜改革研究会」を実施した。本研究会では、昨今の入学者選抜改革の動向等について、専門家を招いてレクチャーを行うと同時に、「立正大学 2021 年度新学部構想：データサイエンス学部(仮称)について」として、研究会開催時点での本学によるデータサイエンス学部の構想を紹介した。そして最後に、「2021 年度入学者選抜改革研究会 来場者アンケート」として、各高校におけるデータサイエンス学部への進学意向を尋ねた (資料 5)。その結果、58 名からの回答が得られ、「貴校には本学が構想中のデータサイエンス学部の魅力を感じる可能性のある生徒様はいらっしゃいますか?」という質問に対して「いると思う」あるいは「少しいると思う」と回答した者の割合は合計で 47 名 (81.1%)、「貴校には本学が構想中のデータサイエンス学部へ進学を希望する可能性のある生徒様はいらっしゃいますか?」という質問に対して「いると思う」あるいは「少しいると思う」と回答した者の割合は合計で 43 名 (74.1%) と、いずれも本学データサイエンス学部への関心度が高いことが確認された。

○ 志願者数及び入学希望者数の推定

前項で取り上げた第 3 の調査である株式会社マクロミルへの委託による高校生対象調査によれば、「あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」を受験してみたいと思いますか。」という問いに対して、1 年生 67 名、2 年生 63 名、3 年生 59 名が「受験したいと思う」と回答した。

この調査は、マクロミル社が保有する 188,195 人の高校生モニターを対象に、まず第 1 段階のスクリーニング調査において大学進学の意味を調査し、大学進学の意味を持っている学生を対象として第 2 段階の調査として本学部受験の意志や入学の意思などを調査している。この約 19 万人のモニターを、全国の高校生を母集団としてそこから無作為に抽出された標本であるとみなせば、上記の調査結果に抽出率の逆数 (全国高校生数 / モニター数)

を乗ずることにより、本学部への志願者数を推定することができる¹。

そこで、文部科学省「学校基本調査」より高等学校の学生総数をみると、全体で 3,345,183 人（うち全日制・定時制 3,147,487 人、通信制 197,696 人）であるので、抽出率の逆数は 17.8（ $\equiv 3,345,183 / 188,195$ ）となる。これを基にすれば、本学部への志願者数は 1 年生 1,191 人、2 年生 1,120 人、3 年生 1,049 人と推定される²。また、この推定志願者数を分子、定員数 240 名を分母として推定志願倍率を求めれば、それぞれ 5.0 倍、4.7 倍、4.4 倍となる。

本学既存学部・学科における過去 5 年間の平均実志願倍率³（資料 6）と比較すれば、データサイエンス学部の推定志願倍率は、品川キャンパスに位置する経済学部（4.6 倍）や経営学部（4.7 倍）と同程度の水準にあり、データサイエンス学部を開設する熊谷キャンパスの既存 2 学部（社会福祉学部、地球環境科学部）の倍率（2.7～3.6 倍）を上回っている。

同様の手法で、入学希望者数を推定する。アンケート調査において、受験意志があると回答した者のうち「あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」を受験して合格したら、入学したいと思いますか。」という問いに「入学したいと思う」と回答した学生は、1 年生 53 名、2 年生 48 名、3 年生 44 名⁴であった。これを基に抽出率の逆数 17.8 を掛けることにより、入学希望者数は 1 年生 942 人、2 年生 853 人、3 年生 782 人と推定される。これは毎年の定員数 240 名を大きく上回っている⁵。

以上の分析により、本データサイエンス学部では、少なくとも令和 2 年度の開設から 3 年間継続して定員数を大きく上回る志願者および入学希望者を確保することができるものと考えられる。

¹ マクロミル社の高校生モニターに関しては、都道府県別人数や学年別人数が公表されておらず、地域別や学年別の詳細な推定を行うことはできないため、地域や学年を区分せずに抽出率を設定している。

² ここでの学年は、令和 2 年度における高校での学年を表しているため、1 年生は令和 5 年度入試、2 年生は令和 4 年度入試、3 年生は令和 3 年度入試を受験することになる。

³ ここでの学部・学科別実志願倍率とは、志願者総数から、異なる入試日程間の併願（同一の学生が複数の入試日程で同一学部を複数回受験するケース）を除いた者を分子とし、定員数を分母として倍率を計算したものである。

⁴ この 44 名のうち、既に本学が実施している別の調査に回答済みの者が 9 名含まれており、これを除けば前項で述べた 35 名に一致する。本項では、マクロミル社を通じて行ったアンケート調査結果のみを利用して人数の推定を行うため、他の調査に回答済みの者を除く必要はない。

⁵ 以上の分析は、通信制高等学校に通う学生を含めた結果であるが、通信制を除き全日制および定時制に絞った場合には、アンケート調査において「受験したいと思う」と回答した学生が 1 年生 66 名、2 年生 58 名、3 年生 53 名、うち「入学したいと思う」と回答した学生が 1 年生 52 名、2 年生 45 名、3 年生 38 名であった。一方で、マクロミル社の高校生モニターには通信制の学生が含まれておらず、全日制あるいは定時制の学生のみであると仮定した場合には、抽出率の逆数は 16.7（ $\equiv 3,314,487 / 188,195$ ）となる。結果として推定される志願者数（志願倍率）は 1 年生 1,104 人（4.6 倍）、2 年生 970 人（4.0 倍）、3 年生 886 人（3.7 倍）、入学希望者数は 1 年生 870 人、2 年生 753 人、3 年生 636 人となり、依然として毎年の定員数 240 名を大きく上回ることになる。

○ アスリート学生の受け入れ

加えて、本データサイエンス学部には、アスリート学生の入学も期待できる。今回のデータサイエンス学部設置に伴い、既設学部より計 40 名の定員移動を行うが、これは、既設学部における強化クラブ生の枠となっている。立正大学ではこれまで社会福祉学部のラグビー部、地球環境科学部のサッカー部に加え、法学部の野球部という 3 強化クラブに対しそれぞれ 25 名、15 名、25 名の学生を毎年受け入れてきた。

本強化クラブ生に対しては、独自のスポーツ奨学金制度を設置しており、平成 30 (2018) 年度は 89 名の強化クラブ生に対して奨学金を支給している。こうした支援制度もあって、各強化クラブでは毎年度、募集人数通りの学生を確保している。

今回の学部設置に伴い、強化クラブ枠も移行することとなるが、これは強化クラブ生にとっても、彼らの学習意欲に合致するものであると考えられる。すなわち、現在スポーツデータサイエンス等の新領域が注目されている通り、データサイエンスを学ぶ機会はアスリートにとっても大いに需要があると考えられる。既設学部における 40 名の定員枠は、これまで常に安定的な志願者確保の実績があり(定員充足率の 5 年平均は 0.98 倍)、データサイエンス学部において、アスリートに向けた枠を新たに設置することで、安定的に志願を見込むことができる。

○ 既設学科における定員充足状況及び志願者数・志願倍率の推移

以上、データサイエンス学部の志願動向および調査結果に基づく学生確保の見通しについて述べた。以下、関連情報についても述べる。

まず、実際の本学への志願状況等の実績に基づき、学生確保の見込みについて述べる。(資料 7) に示す通り、本学はいずれの既設学科においても、安定的な定員充足を実現しており、入学定員充足率を年度・学科別に見た場合、一部 0.7 倍を下回る部分はあるものの、過去 5 年平均の入学定員充足率は 1.0 倍、学科別に見た場合でも 0.7~1.0 倍となっている。また、志願者数と入学定員の比(志願者数÷入学定員)は、過去 5 年平均で 6.8 倍、学科別に見た場合 3.2~12.7 倍となっており(資料 8)、同一日程による併願や、異なる入試日程間の併願をすべて除いた実人数ベースで見した場合でも、本学全体の志願倍率(実志願者数÷定員)は平均で 2.9 倍となっている(資料 6)。これらの結果から、本学ではこれまでも安定的な志願者確保を実現しているといえる。

各学部のうち、経済・ビジネスの価値創造に力点を置いたデータサイエンス学部に関連する既設の学部である経済学部について見てみると、過去 5 年平均の志願倍率は 6.8 倍、入試日程間の併願を除いた実人数に基づく志願倍率も 4.6 倍となっており、十分な志願実績がある。

○ 競合大学の志願動向

次に、本学の志願者の傾向から見た競合校の動向をみる。本学では毎年、入学者に対して第 1～3 希望であった大学のアンケート調査を行っている。令和元（2019）年度入学生に対するアンケートの結果、経済学部において第 1～3 希望に含まれる件数が 5 件以上の大学（立正大学を除く）は 11 件であった（資料 9）。そこで、この 11 校を今回参照する競合校として想定した。

次に、この競合校における一般入試及びセンター試験利用入試の過去 5 年の志願動向を（資料 10）に示す。ここに示す通り、平均合格倍率（志願者数÷合格者数）は 3.1～7.3 と、比較的高い水準を保っている。つまり、競合校においては既に志願者数は合格者数に対して大きく超過し、競合校から流出した志願者が既に多く存在している状況であるといえる。そのため、仮に本学において新たに学部を設置した場合においても、本学の潜在的志願者が競合校へ吸収されるとは考えにくく、こうした観点を考慮しても、一定の学生確保は可能であると考えられる。

○ 人口動態に基づく見通し

周知の通り、日本国全体の人口減に伴い我が国の 18 歳人口も今後減少していく。そのため、今後の志願者確保については、こうした点についても考慮する必要がある。そこで、国立社会保障・人口問題研究所による『日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）』⁶をもとに、人口減に伴う志願者数の変化について推計を行った（資料 11）。

具体的にはまず、本学志願者実人数の地域別構成率を過去 5 年の平均に基づいて算出した。次に、国立社会保障・人口問題研究所による 15～19 歳人口の推計結果を基に、令和 7（2025）年、令和 12（2030）年、令和 17（2035）年における平成 27（2015）年度に対する人口の減少比率を地域別に算出した（資料 11 の D）。なお、海外を含む「その他」の区分については、便宜的に全地域の平均減少比率を用いた。

次に、この志願者減少比の値を用い、今後の志願者数の推定値を計算した。各地域の平均志願者数（資料 11 の C）に令和 7（2025）年、令和 12（2030）年、令和 17（2035）年それぞれの志願者数減少比（の D）を乗じ、志願者数の推定値とした（資料 11 の E）。

その結果、予測された人口減に伴う志願者実人数は令和 7（2025）年、令和 12（2030）年、令和 17（2035）年それぞれで 6,564 名、6,244 名、5,977 名となった。これは、現在の募集定員である 2,565 名の 2 倍以上となる数値であり、人口減少を考慮した場合でも、今後の入学者確保は可能であると考えられる。

⁶ 『日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）』

<<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>>

○ 受験率および歩留率の推移

ここまで、本学が今後も引き続き一定程度の志願者確保が可能である見通しについて述べた。しかしながら、実際に安定して学生を受け入れていくためには、志願者数が維持されるだけでなく、実際に受験をする学生や、本学へ入学する学生の数が増える必要がある。そのため最後に、過去5年間の志願者における実際の受験者の割合（受験率）および、合格者における入学者の割合（歩留率）を算出した。その結果、（資料12）に示す通り、受験率は一貫して98%程度と安定しており、歩留率も60%前後とほぼ安定した数値となった。そのため本学においては、同様の受験率、歩留率を想定できる。従って、受験率や歩留率を考慮した場合でも、入学者数は確保できる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学の運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、関東圏でデータサイエンス学部もしくはそれに類似する学部を設定している私立大学（武蔵野大学データサイエンス学部149.66万円〔内訳：入学金18万円、授業料97万円、教育充実費26万円、実験実習費7万円、その他（後援会費等）1.66万円〕、東洋大学情報連携学部151万円〔内訳：入学金25万円、授業料99万円、一般施設設備資金：26万円〕）の学生納付金の設定状況を参考にしたうえで、完成年度における教育研究経費比率や経営経費依存率を見極めつつ、大学の運営上における人件費および教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による採算分岐点に基づく金額（148.4万円〔内訳：入学金28.8万円、授業料73.8万円、施設設備資金21.8万円、実験実習料19.5万円、教育充実費4.5万円〕）として設定している。

② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

○ 入試上の基本的な取り組み

学生確保に向けた基本的な取り組みとして、高校生やその保護者を対象に、本学の情報を広く伝えるためのオープンキャンパスを実施している。毎年概ね、品川キャンパスで7日間、熊谷キャンパスで5日間の計12回開催しており、過去4年の平均で合計13,492名の来場者数があった(資料13)。その他にも、高校教員向け説明会を実施し、本学へ入学を希望する生徒がいる高校教員向けに、教育目的や教育内容、入試制度などを説明する機会を設けている。

こうしたオープンキャンパスや高校教員説明会は、具体的な志願者確保につながっていると考えられる。例えば、オープンキャンパス来場者の内、株式会社マイナビが提供している入試情報サービスに登録している者については、実際に本学を受験したかどうかを確認することができる。これによれば、平成30(2018)年度のオープンキャンパスに来場した高校生でマイナビに登録している者7,049名の中から、のべ6,117名(86.8%)の志願があった。また、高校教員説明会については、関東地方に所在する高校の内、説明会に参加があった高校とそうでない高校からの平均志願者数は16.4名対12.1名であり、説明会に来場する高校からの方が志願者数は多くなっている。こうしたことから、学生確保に向けた取り組みには、志願者確保のため一定の効果が見込まれる。

その他にも、首都圏以外の学生が本学を受験するチャンスを増やすための説明会に参加している。更に入学試験についても地方入試を開催し、品川・熊谷キャンパスだけでなく、札幌会場、仙台会場、新潟会場、金沢会場、さいたま会場、水戸会場、高崎会場、静岡会場、福岡会場など、全国各地で入学試験を受験できるよう、制度を整えている。

○ データサイエンス学部浸透に向けた取り組み

データサイエンス教育への社会的需要が高まっているとはいえ、そうした認識が社会全体に浸透しているわけではない。実際、(資料5)に示した高校教員対象のアンケートからも、「今後、データサイエンスの資質を身につけた人材需要が高まると予想されていることをご存知でしたか?」という質問に対して、「あまり知らなかった」あるいは「知らなかった」を選択した回答者の割合は24.1%と4分の1近くに上った。そこで、本学としては、まず新聞等各種媒体にてデータサイエンス教育の必要性を社会に訴えるとともに、様々な取り組みを実施していく予定である。具体的には、(資料14)の通り、令和2(2020)年度内にデータサイエンスに関する今後一般向けの公開講座、高校生向けの講座、メディア向けセミナー等を、本学独自、あるいは新聞社とのタイアップの上で多く実施する予定であり、データサイエンスに関する啓蒙と、本学部の構想浸透を図る。

また、このような啓発・構想浸透のための取り組みの一環として、令和2(2020)年1月にデータサイエンス学部構想に関する特設ページを本学公式HPに設置した。当該ページ

へのアクセスは、1月から2月の間で2倍以上に増加しており、大学HP全体の閲覧に占める割合も2.3%から5.7%へ増加し、大学全体のページの中での閲覧順位も4位から3位へと上昇している(資料14)。このように、2か月という短期間の間でも、本学のデータサイエンス学部に対する関心は高まっていることが客観的にも確認できており、こうした取り組みが学生確保につながるものと考えられる。

○ 多様な学生の受け入れに向けた取り組み

現在進んでいる高大接続改革および入学者受け入れの方針改正を踏まえ、一般入試の中心にR方式の実施を予定している。これは、単純な知識だけでなく、思考力や判断力、表現力等を多面的・総合的に評価する入学者選抜方法である。またこの改革を踏まえ、今後学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「態度」を総合的に評価する入試制度の実施を検討する予定である。こうした入試改革によって、本学の入学者受け入れの方針に基づいた学生確保をより確かなものとするのが期待される。

また平成28(2016)年度4月に、障がいのある学生支援ルーム(現在の名称「障害学生支援室」)を品川・熊谷両キャンパスに設置した。これは、障がいの診断を受けた学生に限定することなく、修学支援を必要とする学生を対象としており、修学上の困難さを軽減し、本来の能力を発揮できるように、各人のニーズに合わせて、合理的な配慮としての支援を行うことや情報提供を行うことを主な業務としている。

障害学生支援室には、コーディネータおよび相談員が配置されており、障がいを持つ学生が入学した場合は、必ず当該学生に支援等の要望を確認している。そうしたニーズを踏まえ、個別の相談、学内外の関係者、関連する諸機関との連絡・調整を行いながら、補助の機器の貸出や、ノートテイク、PCテイクボランティアのコーディネート、その他自己管理支援や環境調整など様々な形で学生の支援を行っている。

このように本学では、障害学生支援室を中心として学生の様々な個性に合わせた支援を多く行っており、それぞれの学生が自らの特性に応じた学習を実現できるようになっている。これらの取り組みによって、多様な学びの特性を持つ学生の受け入れにつながると考えられる。

○ 学業支援に向けた取り組み

本学では学生の学業支援のため、(資料15)に示すような大学独自の奨学金制度を多く設定している。学部生対象のものとしては、大学独自の成績優秀者の学業奨励を目的とする「特別奨学生」「橘奨学生第1種」「橘奨学生第2種」「大学院進学奨学金」「スポーツ奨学金」「聖巖法師奨学金」および、経済的困窮が理由で学業を続けることが困難な者の学業継続支援を目的とした「学部橘経済支援奨学生」「学業継続支援奨学金」の8種である。いずれも返還を求めない給付型である。平成30(2018)年度は合計273名が給付の対象となり、総額134,373,500円の給付を行った。またその他にも、震災や火災、水害などの災害に遭った学生のための支援金制度を設けている。

こうした奨学金制度は、今後、予算規模を縮小することなく再編することを予定しており、学生の多様な背景に応じて学習を支援するための制度へと改善していく予定である。これによって、経済状況等に左右されることなく、様々な学生が入学できるよう、制度を整えていく予定であり、多様な背景を持つ学生の受け入れにつながると考えられる。

③ まとめ

我が国では、18歳人口が減少する中であっても、データサイエンス学部への需要は極めて高い。本学独自に実施したアンケートからは、262名の入学希望者が存在すること、高校生全体の中では推計で782名の入学希望者が存在することが示されている。加えて、データサイエンス学部への関心は、学年が若くなるほど高まっており、今後データサイエンス学部への需要はさらに高まっていくものと考えられる。

さらに、アスリート学生の受け入れや、本学経済学部など、関連学部の志願状況を考慮に入れれば、本学が設定した240名の定員を確保することは確実である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

本データサイエンス学部では、「データの収集・加工・分析に関する基本的な知識・技能を身につけ、データに基づきビジネスの現場で新たな価値創造の担い手となり得るような人材」を輩出していくことを目標としている。

本学部は、「経済・ビジネス系の価値創造 (value creation)」に力点を置くデータサイエンス学部であり、一般の企業においてデータを用いて経済価値の創造を行う人材を養成する。このような人材は、幅広い業種の企業の中で様々な業務に携わりながらデータ分析を担うものであり、その膨大な潜在需要に応えるためにはできるだけ多くの人材を輩出することが求められている。

研究面では、データサイエンスの応用分野での研究を中心に進めていく。すなわち、公的統計や民間統計はもとより、地域団体や民間企業との連携協力により提供・獲得された経済・ビジネス分野でのデータを用いた実践的な応用を模索する研究を促進していく。

データサイエンスの経済社会での応用範囲は、日々広がっていると言っても過言ではない。その中で有為なデータサイエンス人材を社会に対して供給していくことは、立正大学が社会に対して責任を負う重要な約束事であると言える。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な証拠

○ データサイエンス人材に対する社会的ニーズの現状

本学部が人材育成の目標として掲げる「データに基づきビジネスの現場で新たな価値創造の担い手となり得るような人材」については、現時点においてもその供給が不足している。例えば、内閣府経済社会総合研究所が実施した『組織マネジメントに関する調査 (平成 30 年度)』⁷によれば、「意思決定をサポートするためのデータを利用するにあたり、現在、どのような課題に直面していますか」という問いに対して、調査に回答した 6,749 事業所のうち 50%を超える 3,471 事業所が、「データ利用を行う人材が不足している」ことを問題点としてあげている。この調査は、道路貨物運送業、卸売業、医療業に属する事業所を調査対象としたものである。これらの事業所は、いわゆる IT 企業や AI 企業といったデータサイエンスに直結したサービスの提供を主業とするものではなく、IT や AI の技術を利用する側のユーザー企業であるといえる。従って彼らが求めているのは、「AI を開発する人材」ではなく、あくまでも「データ利用を行う人材」であり、これは本学が目標とする「データに基

⁷ 『組織マネジメントに関する調査 (平成 30 年度)』

<http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/service/manage/2018_menu_manage.html>

づきビジネスの現場で新たな価値創造の担い手となり得るような人材」そのものである。ユーザー企業の 50%以上が「データ利用を行う人材」を求めているというこの調査結果は、本学部が育成する人材に対する社会的なニーズが非常に大きいことを示唆している。

また、一般社団法人データサイエンティスト協会が 2019 年 8 月から 10 月に実施した『データサイエンティストの採用に関するアンケート調査』⁸ の結果からも、上述の内閣府調査と同様の結果を見ることができる。このアンケート調査は、日本国内の従業員 30 名以上の一般企業の人事担当者を対象として実施したもので、有効回答数は 283 社となっている。「この 1 年間で貴社が目標としていた人数のデータサイエンティストを確保できましたか。」という質問に対しては、37%の企業が「確保できなかった」、21%の企業が「どちらかといえば確保できなかった」と回答しており、半分以上の企業において、企業のニーズに合ったデータサイエンティストの供給が不足していたことがわかる。

また IT 人材にまで範囲を広げた場合、経済産業省『IT 人材需給に関する調査 調査報告書』⁹における 2018 年の需給ギャップは 22 万人と試算されており、非常に大きな規模の人材供給不足が発生していたことがわかる。なお IT 人材とは、「情報サービス・ソフトウェア企業（Web 企業等を含む）において IT サービスやソフトウェア等の提供を担う人材に加えて、IT を活用するユーザー企業の情報システム部門の人材、ユーザー企業の情報システム部門以外の事業部門において IT を高度に活用する人材、さらには IT を利用する一般ユーザー等」とされており、直接的なデータサイエンティストを指すものではないものの、特に「ユーザー企業の情報システム部門以外の事業部門において IT を高度に活用する人材」や「IT を利用する一般ユーザー」に関しては、本学部が輩出する人材像に重なるものである。これに関連して、独立行政法人情報処理推進機構社会基盤センターの『IT 人材白書 2019』¹⁰によれば、IT 人材の量が「大幅に不足している」あるいは「やや不足している」と回答した企業は、2014 年度調査において IT 企業で 87.4%、ユーザー企業で 75.5%であったものが、2018 年度調査では IT 企業で 92.0%、ユーザー企業では 85.4%と高い水準で推移しながらいずれも上昇している。このように、IT 企業だけでなくユーザー企業においても需要の高まり、人材の不足は明らかであり、本学部が人材育成の目標とするようなデータサイエンス人材への需要は大きなものであると考えられる。

○ データサイエンス人材に対する社会的ニーズに関する今後の見通し

本学部が育成の目標としているようなデータサイエンス人材に対する社会的なニーズは、

⁸ 『データサイエンティストの採用に関するアンケート調査』

<https://www.datascientist.or.jp/common/docs/c-research_2019.pdf>

⁹ 『IT 人材需給に関する調査 調査報告書』

<https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf>

¹⁰ 『IT 人材白書 2019』概要

<<https://www.ipa.go.jp/files/000073565.pdf>>

今後さらに拡大すると考えられる。前出の『データサイエンティストの採用に関するアンケート調査』には、「今後3年間で、データサイエンティストを何名程度増やす予定ですか。」という質問があり、これに対しては、すでにデータサイエンティストが在籍している企業の77%、また在籍していない企業でも11%が「データサイエンティストを増やす」と回答している。

一方で、「今後3年間で、貴社が採用・育成したいデータサイエンティストの人材像をお答えください。」という質問に対しては、「データによるビジネス課題解決を得意とする人材」を「最も当てはまる」と回答した企業が全体の41%と他の人材像に比較して格段に多く、次いで「複数の分野を俯瞰的にみてデータ分析の活用を戦略的に考えられる人材」(18%)、「データ分析のプロフェッショナルな人材」(10%)、「データのハンドリングを得意とする人材(エンジニア)」(7%)などが続いている。また、「今後3年間で、データサイエンティストを何名程度増やす予定ですか。タイプ別にお答えください。」という質問に対しては、「データマーケター(ビジネス課題を抽出し、データを分析・活用して課題を解決できる人材)」と回答した企業が40%と最も多く、データアナリスト(24%)、データエンジニア(36%)を上回っていた。以上の結果をみれば、一般企業の多くが、本学が人材育成の目標として掲げている「データに基づきビジネスの現場で新たな価値創造の担い手となり得るような人材」を将来的にも必要としていることがわかる。このほかに、矢野経済研究所が実施した調査および将来展望¹¹によれば、国内データ分析関連人材規模は2018年度において44,200人であったものが、2022年度の予測では116,000人へと急増すること、「IT事業者やユーザー企業を問わず、新卒採用に向けた動きも出始めている」こと、さらに「現在、データモデルの構築などを含めて、データの分析自体に価値を見出す傾向にあるものの、徐々にデータの活用戦略の策定段階に重要性が増すものと考えられることから、今後は分析コンサルタントの需要が高まっていく」ことが示されている。この結果もまた、本学部が目指すビジネス分野で活躍するデータサイエンス人材に対するニーズが今後増加することを示唆している。また前出の『IT人材需給に関する調査 調査報告書』では、IT人材の将来の需給ギャップについても試算しており、IT需要の伸び率の設定によって結果は様々であるものの、IT人材に関する中位シナリオでは、2030年時点で約45万人のIT人材供給不足が発生するとされている。このように中長期で見た場合にも、人材需給ギャップは拡大することが予想される。

以上のように、我が国においては、データサイエンスに関する能力を有した人材の育成に対して大きな需要があるにもかかわらず、それに応じた人材の輩出は十分なされておらず、現時点ではもとより将来にわたっても高等教育におけるデータサイエンス人材養成には大きな社会的需要が存在すると考えられる。

¹¹ 矢野経済研究所ホームページ「データ分析関連人材規模に関する調査を実施(2019年)」
<https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/2180>

○ 本学が育成するデータサイエンス人材に対する社会的需要

以下では、本学が一般企業を対象として実施したアンケート調査の結果を示し、本学データサイエンス学部を卒業する人材に対する需要の動向を明らかにする。

アンケート調査は、令和2年8月に株式会社マクロミルを通じてオンライン調査の形式で行い、過去3年間に少なくとも正規社員を1名以上採用している企業(516社)の人事担当者および経営者から回答を得た。企業の本社所在地は富山県と山梨県を除く全国45都道府県に散らばっており、企業の規模も従業員数10名未満の小企業から3000人以上の大企業まで幅広く分布している。質問票および結果のまとめを(資料16)として添付する。

結果として、「貴社・貴団体は、これからの社会にとって立正大学「データサイエンス学部」は必要だと思われませんか。」という問いに対して過半数を超える56.0%が「必要だと思う」と回答し、「貴社・貴団体では、立正大学「データサイエンス学部」を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。」という質問に対しても37.6%が「採用したいと思う」と回答した。また、「採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。」という質問に対しては、1名から10名以上まで、幅広い回答が得られた。この回答にもとづいて、想定採用人数を計算したところ毎年の採用予定総人数は482人であった¹²。今回実施した小規模な調査ですら、本学部の定員数240名の2倍を上回るほどの人材需要が明らかとなった。本学部が輩出する人材に対する社会的需要は極めて大きいといえる。

この他に、複数の企業や団体から本学部設置に対する要望書を受け取っている。企業等の分野としては、金融、保険、証券、観光、情報、環境、スポーツなど広範にわたっており、その規模も小さいものから大きなものまで様々である。このことは、まさに本学部が人材育成の目標としている「一般の企業においてデータを用いて経済価値の創造を行う人材」や「幅広い業種の企業の中で様々な業務に携わりながらデータ分析を担う人材」が、分野や業種を問わず現代社会・経済の様々な場所で必要とされていることを示唆している。要望書の写しを添付する(資料17)。

○ 本学が育成するデータサイエンス人材に対する地域的需要

本学部が所在する熊谷市においても、平成23(2011)年に「産学官連携に関する基本協定」を結び、教育・研究・地域貢献等で様々に連携する取り組みを行っており、熊谷キャンパスにおいて新学部を設立することは、地域からの要望でもあった。前項で示した企業・団体からの学部設置要望書の中には、熊谷市をはじめ、熊谷商工会議所、熊谷市観光協会、一般社

¹² 「1名」と回答した64社については $1 \times 64 = 64$ 名、「2名」と回答した31社については $2 \times 31 = 62$ 名、といったように各層別の人数を計算し、それらの合計を求めた。なお「5名から9名」と回答した場合には平均をとって7名とし、「10名以上」と回答した場合には10名、「人数は未定」と回答した場合には1名として計算を行った。

団法人さいしんコラボ産学官など、熊谷市内の企業・団体が数多く含まれており、熊谷地域における本学部に対する期待は大きなものである。加えて、本学部を設置する熊谷地域における人材需要の実態を客観的データによって明らかにするために、令和2年1～2月に熊谷商工会議所に所属する会社・団体に対して「立正大学に関するアンケート」を実施した。その結果、23の会社・団体より回答があった。結果を見ると、データサイエンス学部の各特色について「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した会社・団体の割合は、いずれも9割前後となっており、データサイエンス学部を卒業した学生を「採用したいと思う」という回答も60.9%と半数を上回った。これらのことから、日ごろの教育・研究上のパートナーである地域・企業からもデータサイエンスの能力を身につけた人材の養成への需要は高いと考えられる。なお、(資料18)として、アンケート結果の概要および詳細と、アンケート調査票を添付する。

○ 全般的な人材需要と既設学科における人材輩出実績

リクルートホールディングス株式会社による「第36回 ワークス大卒求人倍率調査 (2020年卒)」¹³によれば、平成30(2019)年3月の大卒予定者に対する有効求人倍率は1.88倍とリーマンショック以降一貫して増加の傾向にある。

一方、本学ではこうした人材需要の伸び以上の水準で、人材輩出の実績を有している。例えば求人件数の平成26(2014)年度と平成30(2018)年度における求人件数を比べると、全国では1.19倍となっているのに対し、同じ期間で本学では1.35倍となっている。また、就職率(就職者数÷就職希望者数)は緩やかながらも増加傾向にあり、平成30(2018)年度卒業生においては、97.1%と、高い水準を維持しているといえる(資料19)。

③ まとめ

様々な団体が行った複数の調査や分析において、ビジネスの課題解決にデータを利活用できる人材に対する大きな社会的ニーズがあること、また今後も社会的ニーズが成長していくことが示されている。また本学が実施したアンケート調査からも、本学部卒業生に対して毎年の定員数を大幅に上回る人材需要が存在することが明らかとなった。本学は、これまで社会の需要に応じて多くの人材を育成してきた実績を持っており、今回設置しようとしているデータサイエンス学部においても、社会全体のニーズや地域の要請に応じて長期にわたって人材を輩出することができる体制を整えている。受験生の関心が高いだけでなく、社会的な人材需要の動向という点からも、継続的に学生確保を維持していくことは十分可能であると考えられる。

¹³ 「第36回 ワークス大卒求人倍率調査 (2020年卒)」

<https://www.recruit.co.jp/newsroom/2019/0424_18353.html>

資料目次

- 資料 1. 他大学におけるデータサイエンス学部の志願動向
- 資料 2. 立正大学附属高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート
- 資料 3. 立正大学登録の高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート
- 資料 4. マクロミル社による高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート
- 資料 5. 高校教員対象データサイエンス学部に関するアンケート
- 資料 6. 実人数に基づく志願状況
- 資料 7. 既設学科における過去 5 年間の入学定員充足率の推移
- 資料 8. 既設学科における過去 5 年間の志願者数および志願倍率
- 資料 9. 本学入学者における他大学の志望状況
- 資料 10. 競合校における志願状況
- 資料 11. 地域別人口減少率および志願者数の減少予測
- 資料 12. 過去 5 年間の受験率および歩留率
- 資料 13. オープンキャンパス実施状況
- 資料 14. データサイエンス学部浸透に向けた取り組み
- 資料 15. 本学独自の奨学金制度および平成 30 (2018) 年度の給付実績
- 資料 16. 企業対象データサイエンス学部に関するアンケート
- 資料 17. 学部設置要望書
- 資料 18. 熊谷商工会議所加盟企業対象データサイエンス学部に関するアンケート
- 資料 19. 全国および本学の求人・就職状況の推移

他大学におけるデータサイエンス学部の志願動向

		平成29	平成30	令和元
滋賀大学	定員 (A)	100	100	100
	志願者 (B)	406	330	496
	入学者	110	108	105
	志願倍率 (B÷A)	4.1	3.3	5.0
横浜市立大学	定員 (A)		60	60
	志願者 (B)		426	249
	入学者		65	64
	志願倍率 (B÷A)		7.1	4.2
武蔵野大学	定員 (A)			70
	志願者 (B)			1764
	入学者			71
	志願倍率 (B÷A)			25.2

立正大学付属高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート

アンケート結果

	受験したいと思う		入学したいと思う	
文系	117	41.5%	116	41.1%
理系	25	51.0%	25	51.0%
文理不明	2	15.4%	2	15.4%
総計	144	41.9%	143	41.6%

● 有効回答数344名

【資料 2. 立正大学付属高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート】

立正大学データサイエンス学部データサイエンス学科（仮称、設置構想中）
に関するアンケート

立正大学では2021年4月より、「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称）を新設することを構想しています（資料 立正大学データサイエンス学部概要を参照してください）。このアンケートは、高校生、高校卒業生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、立正大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや添付した資料に記載されている「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称、設置構想中）に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。

■最初にあなた自身についてお聞きします。

性別：男性 女性（どちらかに○）

学年：高校・大学 年生

現住所： 都・県

所属クラス・コース・学部など：文系 理系 その他 区別無し

（いずれかに○）

■高校卒業後の進路について、現時点での考えを教えてください。以下の項目から、当てはまるもの全てに○をつけてください。大学生の方は、高校3年生の時点でのお考えを教えてください。

1 国立大学に進学 2 私立大学に進学 3 短期大学に進学

4 専門学校・専修学校に進学 5 就職 6 その他

【資料 2. 立正大学付属高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート】

■あなたはどの様な学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選んでください。大学生の方は、現在所属の学部学科等に限定せずにお答えください。

- 1 法学 2 経済学 3 社会学 4 農・水産学 5 理学 6 工学 7 医歯薬学
8 看護保健学 9 総合科学 10 生活科学 11 国際関係学 12 芸術学
13 教員養成・教育学 14 文学 15 語学 16 その他 ()
17 まだ決めていない

■立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

A データサイエンスの基礎となる数学、統計学、情報科学を教養的科目として学習。

- 1 とても魅力的 2 魅力的 3 あまり魅力的ではない 4 全く魅力的ではない

B データサイエンティストに必要な情報リテラシー、プログラミング、情報セキュリティ、機械学習、社会調査を共通科目として習得。

- 1 とても魅力的 2 魅力的 3 あまり魅力的ではない 4 全く魅力的ではない

C 専門分野としてスポーツ、観光、社会、ビジネスの実態を知ること、データサイエンス×専門分野というダブルメジャーの人材育成カリキュラム。

- 1 とても魅力的 2 魅力的 3 あまり魅力的ではない 4 全く魅力的ではない

D 実務家教員による指導と、実業界で実際にデータを用いた企業や組織との連携、インターンシップ・フィールドワークを通じた実践型授業。

- 1 とても魅力的 2 魅力的 3 あまり魅力的ではない 4 全く魅力的ではない

【資料 2. 立正大学付属高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート】

■あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。大学生の方は、もし現在、高校生だった場合と仮定してお答えください。

1 受験したいと思う 2 受験したいと思わない

■あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。大学生の方は、もし現在、高校生だった場合と仮定してお答えください。

1 入学したいと思う 2 入学したいと思わない

以上

立正大学 データサイエンス学部 概要

名称

立正大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科

設置の理念

情報処理技術の急速な発達に伴う AI 時代の到来により、ビッグデータを実務に応用できる知識やノウハウを、身につけた人材が広く求められています。政府の『AI 戦略 2019』が指摘する通り、我が国ではこうした人材が極度に不足しています。文理融合型の立正大学データサイエンス学部は、先鋭的なデータアナリストだけではなく、データサイエンスを広く経済社会に応用し、スポーツ・社会・観光・ビジネス等の現場で新たな価値を生み出す即戦力となる人材を養成します。データサイエンスの進歩は急激に起こっており、学生の知識もすぐに劣化してしまう可能性があります。立正大学データサイエンス学部では卒業生ネットワークを築き、卒業生に対しても、常にデータサイエンスに関する最新の情報を提供すると同時に、社会で必要とされる技術や問題意識に関して卒業生や関係者からのフィードバックを得ることによって、教育内容をダイナミックに変更していく仕組みを構築することを目指しています。

養成する人材像

立正大学データサイエンス学部で養成したい人材は、IT 産業や自動車・家電メーカー・金融機関など、データサイエンスのフロンティアを担うような分野で活躍できる人材というよりは、通常の経済活動、例えば、一般企業の営業や広報に従事する人材、あるいは国家公務員や地方公務員や観光サービスで働く人材で、基本的なコンピュータ・ネットワークやデータベースの管理ができる人材、企業のホームページや SNS を通した情報の提供ができる人材などを供給することを目指しています。言わば、データサイエンティストの基盤を担うような堅実かつ柔軟な人材を育て、卒業後も彼らの必要に応じて、情報や技術支援を行う継続することで、データの時代を継続的に担い、価値創造に貢献する人材を供給し続けていきます。

設置場所

立正大学熊谷キャンパス

埼玉県熊谷市万吉 1 7 0 0

東武東上線 森林公園駅よりバスで 12 分

JR 高崎線・湘南新宿ライン 熊谷駅よりバスで 10 分

学生納付金（予定）

入学金 288,000 円

授業料（年額） 738,000 円

施設設備資金（年額） 218,000 円

教育充実費（年額） 35,000 円

実験実習料（年額） 210,000 円

諸費

学生健康保険互助会費 13,000 円

校友会費 18,000 円（初年次、2 年次以降は 10,000 円）

合計 1520,000 円

データサイエンスを学べる他の大学

- 滋賀大学データサイエンス学部
- 横浜市立大学データサイエンス学部
- 武蔵野大学データサイエンス学部

以上

[資料 3. 立正大学登録の高校生対象にデータサイエンス学部に関するアンケート]

●立正大学データサイエンス学部 データサイエンス学科(仮称、設置構想中)に関するアンケート

回答者数	397	
高校1年生	23	5.8%
高校2年生	51	12.8%
高校3年生	313	78.8%
その他	10	2.5%
受験したいと思う	133	33.5%
うち、高校3年生 ^{※1}	97	31.0%
入学したいと思う	203	51.1%
うち、高校3年生 ^{※1}	162	51.8%
うち、有効数 ^{※1,2}	84	26.8%

※1 割合は3年生の人数である313名に対する値

※2 「入学したいと思う」と回答した3年生のうち「受験したいと思う」と回答し、かつ別の進学意向調査に回答していない者

立正大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科（仮称、設置構想中）に関するアンケート

立正大学では2021年4月より、「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称）を新設することを構想しています（詳細は、アンケートの途中で表示される立正大学データサイエンス学部概要を参照してください）。

このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、立正大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 *

男性

女性

学年 *

高校1年生

高校2年生

高校3年生

その他:

現住所（都道府県のみで構いません） *

回答を入力



所属高校の課程 *

- 全日制課程：普通科
- 全日制課程：専門学科
- 全日制課程：総合学科
- 定時制課程：普通科
- 定時制課程：専門学科
- 通信制課程：普通科
- 通信制課程：専門学科
- その他:

所属クラス・コースなど *

- 文系
- 理系
- 区別なし
- その他:

高校卒業後の進路について、現時点での考えを教えてください。以下の項目から、当てはまるものを全て選択してください（複数回答可）。 *

- 国公立大学に進学
- 私立大学に進学
- 短期大学に進学
- 専門学校・専修学校に進学
- 就職
- その他:



【資料 3. 立正大学登録の高校生対象にデータサイエンス学部に関するアンケート】

あなたはどのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選んでください（複数回答可）。*

- 法学
- 経済学
- 社会学
- 農・水産学
- 理学
- 工学
- 医歯薬学
- 看護保健学
- 総合科学
- 生活科学
- 国際関係学
- 芸術学
- 教員養成・教育学
- 文学
- 語学
- まだ決めていない
- その他:



【資料 3. 立正大学登録の高校生対象にデータサイエンス学部に関するアンケート】

以下は、現在立正大学が設置構想中のデータサイエンス学部に関する説明です。
説明をお読みになった上で、以下の質問にご回答ください。

■名称

立正大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科

■設置の理念

情報処理技術の急速な発達とそれに伴うAI時代の到来により、ビッグデータを実務に応用できる知識やノウハウを身につけた人材が広く求められています。政府の『AI戦略2019』が指摘する通り、わが国ではこうした人材が極度に不足しています。立正大学の文理融合型データサイエンス学部からは、先鋭的なデータサイエンスだけでなく、データサイエンス・AIを広く経済社会に応用し、データの時代を支えていく幅広い中間層の人材を輩出していくことを目指しています。データサイエンスの進歩は急激に起こっており、学生の知識もすぐに劣化してしまう可能性があります。立正大学データサイエンス学部では卒業生ネットワークを築き、卒業生に対しても、常にデータサイエンスに関する最新の情報を提供すると同時に、社会で必要とされる技術や問題意識に関して卒業生や関係者からのフィードバックを得ることによって、教育内容をダイナミックに変更していく仕組みを構築することを目指しています。

■養成する人材像

立正大学データサイエンス学部で養成したい人材は、IT産業や自動車・家電メーカー・金融機関など、データサイエンスのフロンティアを担うような分野で活躍できる人材に加え、通常の経済活動、例えば、一般企業の営業や広報に従事する人材、あるいは官公庁や観光サービスで働く人材で、基本的なコンピュータ・ネットワークやデータベースの管理ができる人材、企業のホームページやSNSを通じた情報の提供ができる人材などを供給することを目指しています。言わば、データサイエンティストの基盤を担うような堅実かつ柔軟な人材を育て、卒業後も彼らの必要に応じて、情報や技術支援を行うことで、データの時代を主体的に担い、価値創造に貢献する人材を安定的に供給していきます。

■設置場所

立正大学熊谷キャンパス

埼玉県熊谷市万吉1700

東武東上線 森林公園駅よりバスで12分

JR高崎線・湘南新宿ライン 熊谷駅よりバスで10分

■学生納付金（予定）

入学金 288,000円

授業料（年額） 738,000円

施設設備資金（年額） 218,000円

教育充実費（年額） 35,000円

実験実習料（年額） 210,000円

諸費

学生健康保険互助会費 13,000円

校友会費 18,000円（初年次、2年次以降は10,000円）

合計 1520,000円

■データサイエンスを学べる他の大学

- 滋賀大学データサイエンス学部
- 横浜市立大学データサイエンス学部
- 武蔵野大学データサイエンス学部

●さらに詳しく知りたい場合は、以下のページをご覧ください。

<http://www.ris.ac.jp/ds/>

立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。

A:データサイエンスの基礎となる数学、統計学、情報科学を専門科目として学習。*

- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない



【資料 3. 立正大学登録の高校生対象にデータサイエンス学部に関するアンケート】

B:データサイエンティストに必要な情報リテラシー、プログラミング、情報セキュリティ、機械学習、社会調査を専門科目として習得。*

- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない

C: 価値創造分野としてスポーツ、観光、社会、ビジネスの実態を知ること、データサイエンス×価値創造という人材育成カリキュラム。*

- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない

D: 実務家教員による指導と、実業界で実際にデータを活用している企業や組織との連携、インターンシップ・フィールドワークを通じた実践型授業。*

- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない

あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。*

- 受験したいと思う
- 受験したいと思わない

あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。*

- 入学したいと思う
- 入学したいと思わない



【資料 3. 立正大学登録の高校生対象にデータサイエンス学部に関するアンケート】

あなたは、過去1年間に立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」（仮称、設置構想中）に関するアンケート調査を受けたことがありますか。

*

ある

ない

質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

回答のコピーを自分宛に送信する

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

reCAPTCHA
[プライバシー利用規約](#)

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム



【資料 4. マクロミル社による高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート】

●マクロミル社による高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート


回答者数	1030	
高校1年生	231	22.4%
高校2年生	374	36.3%
高校3年生	422	41.0%
その他	3	0.3%
受験したいと思う	190	18.4%
うち、高校3年生 ^{※1}	59	14.0%
入学したいと思う	233	22.6%
うち、高校3年生 ^{※1}	79	18.7%
うち、有効数 ^{※1,2}	35	8.3%


※1 割合は3年生の人数である285名に対する値

※2 「入学したいと思う」と回答した3年生のうち「受験したいと思う」と回答し、かつ別の進学意向調査に回答していない者

【資料 4. マクロミル社による高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート】

大学に関するアンケート
下記アンケートにご協力をお願いいたします。

 「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力をお願いします。

 アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

G1

100%

立正大学では2021年4月より、「データサイエンス学部 データサイエンス学科」(仮称)を新設することを構想しています。
(資料は立正大学データサイエンス学部概要を参照してください)

このアンケートは、高校生・高専生のみなさんの進路選択に対する考え方や、
大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、
立正大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、
上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、
個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いします。

※このアンケートや添付した資料に記載されている

「データサイエンス学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。

▼ 立正大学データサイエンス学部概要 ▼

名称

立正大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科

設置の理念

情報処理技術の急速な発達とそれに伴うAI時代の到来により、ビッグデータを実務に活用できる知識やノウハウを身につけた人材が広く求められています。政府の『AI戦略2019』が指摘する通り、わが国ではこうした人材が極度に不足しています。立正大学の文理融合型データサイエンス学部からは、先鋭的なデータサイエンスだけではなく、データサイエンス・AIを広く経済社会に応用し、データの時代を支えていく幅広い中間層の人材を輩出していくことを目指しています。データサイエンスの進歩は急激に起こっており、学生の知識もすぐに劣化してしまう可能性があります。立正大学データサイエンス学部では卒業生ネットワークを築き、卒業生に対しても、常にデータサイエンスに関する最新の情報を提供すると同時に、社会で必要とされる技術や問題意識に関して卒業生や関係者からのフィードバックを得ることによって、教育内容をダイナミックに変更していく仕組みを構築することを目指しています。

養成する人材像

立正大学データサイエンス学部で養成したい人材は、IT産業や自動車・家電メーカー・金融機関など、データサイエンスのフロンティアを担うような分野で活躍できる人材に加え、通常の経済活動、例えば、一般企業の営業や広報に従事する人材、あるいは官公庁や観光サービスで働く人材で、基本的なコンピュータ・ネットワークやデータベースの管理ができる人材、企業のホームページやSNSを通じた情報の提供ができる人材などを供給することを目指しています。言わば、データサイエンティストの基盤を担うような堅実かつ柔軟な人材を育て、卒業後も彼らの必要に応じて、情報や技術支援を行うことで、データの時代を主体的に担い、価値創造に貢献する人材を安定的に供給していきます。

設置場所

立正大学熊谷キャンパス

埼玉県熊谷市万吉1700

東武東上線 森林公園駅よりバスで12分

JR高崎線・湘南新宿ライン 熊谷駅よりバスで10分

学生納付金(予定)

入学金 288,000円

授業料(年額) 738,000円

施設設備資金(年額) 218,000円

教育充実費(年額) 35,000円

実験実習料(年額) 210,000円

諸費

学生健康保険互助会費 13,000円

校友会費 18,000円(初年次、2年次以降は10,000円)

合計 1,520,000円

データサイエンスを学べる他の大学

○滋賀大学データサイエンス学部

○横浜市立大学データサイエンス学部

○武蔵野大学データサイエンス学部

以上



Q1

最初にあなた自身についてお聞きます。

現在の学年をお答えください。

- 単一回答
- ★ 必須回答
- とじる

- 高校・高専1年生
- 高校・高専2年生
- 高校・高専3年生
- その他 (必須入力)



Q2

あなたの主な課程についてお答えください。

- 単一回答
- ★ 必須回答
- .

- 全日制課程 普通科
- 全日制課程 専門学科
- 全日制課程 総合学科
- .
- 定時制課程 普通科

【資料 4. マクロミル社による高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート】

- 定時制課程 専門学科
- 通信制課程 普通科
- 通信制課程 専門学科
- その他 (必須入力)



Q3

あなたの主な所属クラス・コースなどをお答えください。

- 単一回答
- ★ 必須回答
- 文系
- 理系
- その他 (必須入力)
- 区別無し



Q4

あなたはどの様な学問に興味がありますか。

以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選んでください(複数回答可)。

- ✓ 複数回答
- ★ 必須回答
- とじる
- 法学
- 経済学
- 社会学
- 農・水産学
- 理学
- 工学
- 医歯薬学
- 看護保健学
- 総合科学
- 生活科学
- 国際関係学
- 芸術学
- 教員養成・教育学
- 文学
- 語学
- その他 (必須入力)
- まだ決めていない



Q5

立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

- 単一回答
- ★ 必須回答
- とじる

0/4

1

データサイエンスの基礎となる数学、統計学、情報科学を専門科目として学習

- ▼
- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない

2

データサイエンティストに必要な情報リテラシー、プログラミング、情報セキュリティ、機械学習、社会調査を専門科目として習得

- ▼
- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない

3

価値創造分野としてスポーツ、観光、社会、ビジネスの実態を知ることで、データサイエンス×価値創造という人材育成カリキュラム

- ▼
- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない

4

実務家教員による指導と、実業界で実際にデータを活用している企業や組織との連携、インターンシップ・フィールドワークを通じた実践型授業

- ▲
- とても魅力的
- 魅力的
- あまり魅力的ではない
- 全く魅力的ではない

【資料 4. マクロミル社による高校生対象データサイエンス学部に関するアンケート】



Q6

あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。

- ・ 単一回答
- ・ 必須回答
- ・ とじる

- ・ 受験したいと思う
- ・ 受験したいと思わない



Q7

あなたは、立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。

- ・ 単一回答
- ・ 必須回答
- ・ とじる

- ・ 入学したいと思う
- ・ 入学したいと思わない



Q8

あなたは、過去1年間に立正大学「データサイエンス学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)に関するアンケート調査を受けたことがありますか。

- ・ 単一回答
- ・ 必須回答
- ・ とじる

- ・ ある
- ・ ない

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

送信

高校教員対象データサイエンス学部に関するアンケート

アンケート結果

現在、文部科学省は全ての大学生にデータサイエンスの基礎を学ぶ機会を設けることを検討中であることをご存知でしたか？	選択肢	知っていた	少し知っていた	あまり知らなかった	知らなかった	未回答	計
	件数	11	12	23	11	1	58
	割合	19.0%	20.7%	39.7%	19.0%	1.7%	100.0%
今後、データサイエンスの資質を身につけた人材需要が高まると予想されていることをご存知でしたか？	選択肢	知っていた	少し知っていた	あまり知らなかった	知らなかった	未回答	計
	件数	20	22	12	2	2	58
	割合	34.5%	37.9%	20.7%	3.4%	3.4%	100.0%
今後の社会において、データサイエンスを学ぶことのできる学部・専攻は重要であると思いますか？	選択肢	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	未回答	計
	件数	33	22	1	1	1	58
	割合	56.9%	37.9%	1.7%	1.7%	1.7%	100.0%
貴校には本学が構想中のデータサイエンス学部に魅力を感じる可能性のある生徒様はいらっしゃいますか？	選択肢	いると思う	少しいると思う	ほとんどいないと思う	まったくいないと思う	未回答	計
	件数	20	27	8	0	3	58
	割合	34.5%	46.6%	13.8%	0.0%	5.2%	100.0%
貴校には本学が構想中のデータサイエンス学部へ進学を希望する可能性のある生徒様はいらっしゃいますか？	選択肢	いると思う	少しいると思う	ほとんどいないと思う	まったくいないと思う	未回答	計
	件数	14	29	12	0	3	58
	割合	24.1%	50.0%	20.7%	0.0%	5.2%	100.0%

来場者アンケート

本日はお忙しい中ご参加頂き誠にありがとうございました。恐れ入りますが、本日の内容について、アンケートのご記入をお願いします。今後の企画の参考にさせていただきたく存じます。

○ 本日の内容についてお尋ねします

●本日の研究会の内容はいかがでしたか？

悪かった	やや悪かった	どちらともいえない	やや良かった	良かった
------	--------	-----------	--------	------

○ 本日の内容について、ご質問やご要望などあればご自由にご記入ください

○ 大学におけるデータサイエンス教育に関するお考えについてお尋ねします

●現在、文部科学省は全ての大学生にデータサイエンスの基礎を学ぶ機会を設けることを検討中であることをご存知でしたか？

知らなかった	あまり知らなかった	どちらともいえない	少し知っていた	知っていた
--------	-----------	-----------	---------	-------

●今後、データサイエンスの資質を身につけた人材需要が高まると予想されていることをご存知でしたか？

知らなかった	あまり知らなかった	どちらともいえない	少し知っていた	知っていた
--------	-----------	-----------	---------	-------

●今後の社会において、データサイエンスを学ぶことのできる学部・専攻は重要であると思いますか？

そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	少しそう思う	そう思う
--------	-----------	-----------	--------	------

○ 次に貴学の生徒の方々の進路希望状況についてお尋ねします

●貴学にはデータサイエンスに関する学部への進学を希望している学生さんはいらっしゃいますか？

全くいないと思う	あまりいないとおもう	どちらともいえない	少しいると思う	いると思う
----------	------------	-----------	---------	-------

●貴学には本学が構想中のデータサイエンス学部に魅力を感じる可能性のある学生さんはいらっしゃいますか？

全くいないと思う	あまりいないとおもう	どちらともいえない	少しいると思う	いると思う
----------	------------	-----------	---------	-------

●貴学には本学が構想中のデータサイエンス学部へ進学を希望する可能性のある学生さんはいらっしゃいますか？

全くいないと思う	あまりいないとおもう	どちらともいえない	少しいると思う	いると思う
----------	------------	-----------	---------	-------

○ その他、本学へのご質問やご要望などあればご自由にご記入ください

実人数に基づく志願状況

学部	学科	年度	志願		受験		合格		入学	募集定員	志願倍率	定員充足率
仏教学部	宗学科	令和元	168	(120)	165	(117)	74	(16)	49	50	3.4	98.0%
		平成30	74	(47)	73	(46)	51	(20)	29	50	1.5	58.0%
		平成29	103	(72)	102	(71)	83	(48)	29	50	2.1	58.0%
		平成28	110	(54)	110	(54)	102	(46)	48	50	2.2	96.0%
		平成27	87	(49)	86	(49)	82	(45)	35	50	1.7	70.0%
		平均	108	(68)	107	(67)	78	(35)	38		2.2	76.0%
	仏教学科	令和元	384	(283)	374	(274)	85	(24)	55	55	7.0	100.0%
		平成30	240	(167)	237	(164)	151	(43)	89	55	4.4	161.8%
		平成29	206	(164)	203	(161)	184	(90)	82	55	3.7	149.1%
		平成28	165	(117)	162	(116)	152	(78)	57	55	3.0	103.6%
		平成27	136	(94)	133	(91)	128	(61)	42	55	2.5	76.4%
平均		226	(165)	222	(161)	140	(59)	65		4.1	118.2%	
文学部	哲学科	令和元	698	(482)	678	(470)	173	(49)	80	95	7.3	84.2%
		平成30	469	(308)	458	(299)	178	(57)	93	95	4.9	97.9%
		平成29	596	(455)	579	(438)	199	(76)	97	90	6.6	107.8%
		平成28	386	(295)	369	(280)	220	(81)	119	90	4.3	132.2%
		平成27	373	(255)	365	(249)	217	(87)	92	90	4.1	102.2%
		平均	504	(359)	490	(347)	197	(70)	96		5.5	104.9%
	史学科	令和元	1,158	(588)	1,132	(573)	225	(52)	113	155	7.5	72.9%
		平成30	886	(359)	878	(355)	337	(63)	187	155	5.7	120.6%
		平成29	933	(450)	920	(440)	306	(62)	148	140	6.7	105.7%
		平成28	854	(375)	836	(360)	323	(55)	146	140	6.1	104.3%
		平成27	728	(321)	713	(312)	325	(83)	152	140	5.2	108.6%
		平均	912	(419)	896	(408)	303	(63)	149		6.2	102.4%
	社会学科	令和元	1,077	(756)	1,048	(730)	246	(74)	123	155	6.9	79.4%
		平成30	928	(578)	902	(561)	294	(89)	166	155	6.0	107.1%
		平成29	929	(690)	909	(671)	306	(128)	144	140	6.6	102.9%
		平成28	732	(457)	714	(441)	316	(113)	155	140	5.2	110.7%
		平成27	746	(481)	727	(467)	304	(122)	149	140	5.3	106.4%
		平均	882	(592)	860	(574)	293	(105)	147		6.0	101.3%
	文学科	令和元	1,010	(495)	986	(481)	206	(38)	120	155	6.5	77.4%
		平成30	818	(342)	798	(332)	337	(56)	178	155	5.3	114.8%
		平成29	797	(435)	775	(422)	331	(87)	157	140	5.7	112.1%
		平成28	741	(331)	726	(322)	346	(95)	158	140	5.3	112.9%
		平成27	765	(339)	751	(331)	351	(76)	159	140	5.5	113.6%
		平均	826	(388)	807	(378)	314	(70)	154		5.6	106.2%
経済学部	経済学科	令和元	1,912	(1,087)	1,875	(1,061)	637	(149)	397	400	4.8	99.3%
		平成30	1,712	(819)	1,668	(794)	558	(116)	377	400	4.3	94.3%
		平成29	2,122	(1,142)	2,085	(1,113)	670	(176)	393	360	5.9	109.2%
		平成28	1,339	(713)	1,311	(691)	724	(207)	406	360	3.7	112.8%
		平成27	1,512	(726)	1,487	(703)	742	(194)	391	360	4.2	108.6%
		平均	1,719	(897)	1,685	(872)	666	(168)	393		4.6	104.8%
経営学部	経営学科	令和元	1,514	(859)	1,486	(841)	473	(121)	336	330	4.6	101.8%
		平成30	1,539	(737)	1,524	(715)	467	(101)	302	330	4.7	91.5%
		平成29	1,653	(972)	1,629	(952)	604	(170)	348	300	5.5	116.0%
		平成28	1,349	(643)	1,328	(627)	634	(184)	335	300	4.5	111.7%
		平成27	1,300	(620)	1,280	(605)	602	(160)	329	300	4.3	109.7%
		平均	1,471	(766)	1,449	(748)	556	(147)	330		4.7	106.1%

※カッコ内の数値は各人数の内に含まれる他学科併願者数

【資料 6. 実人数に基づく志願状況】

前頁 続き

学部	学科	年度	志願	受験	合格	入学	募集定員	志願倍率	定員充足率
法学部	法学科	令和元	1,409 (807)	1,381 (788)	419 (83)	308	340	4.1	90.6%
		平成30	975 (475)	954 (453)	412 (72)	318	340	2.9	93.5%
		平成29	1,276 (742)	1,253 (721)	396 (59)	317	300	4.3	105.7%
		平成28	1,208 (523)	1,195 (515)	484 (74)	353	300	4.0	117.7%
		平成27	1,058 (430)	1,041 (421)	538 (110)	354	300	3.5	118.0%
		平均	1,185 (595)	1,165 (580)	450 (80)	330		3.8	105.1%
社会福祉学部	社会福祉学科	令和元	691 (387)	686 (384)	316 (62)	196	200	3.5	98.0%
		平成30	522 (273)	508 (264)	431 (86)	223	200	2.6	111.5%
		平成29	504 (293)	497 (287)	495 (136)	221	200	2.5	110.5%
		平成28	474 (234)	468 (231)	460 (158)	183	200	2.4	91.5%
		平成27	474 (226)	464 (218)	450 (152)	165	200	2.4	82.5%
		平均	533 (283)	525 (277)	430 (119)	198		2.7	98.8%
	子ども教育福祉学科	令和元	397 (230)	395 (228)	186 (49)	97	100	4.0	97.0%
		平成30	294 (125)	288 (121)	203 (46)	106	100	2.9	106.0%
		平成29	322 (175)	314 (168)	252 (103)	111	100	3.2	111.0%
		平成28	296 (128)	292 (126)	269 (103)	107	100	3.0	107.0%
		平成27	317 (154)	313 (152)	252 (101)	110	100	3.2	110.0%
		平均	325 (162)	320 (159)	232 (80)	106		3.3	106.2%
地球環境科学部	環境システム学科	令和元	377 (133)	361 (121)	243 (31)	103	115	3.3	89.6%
		平成30	326 (106)	312 (98)	204 (34)	92	115	2.8	80.0%
		平成29	357 (125)	341 (113)	203 (51)	82	100	3.6	82.0%
		平成28	396 (129)	380 (115)	272 (65)	124	100	4.0	124.0%
		平成27	419 (122)	406 (114)	308 (80)	115	100	4.2	115.0%
		平均	375 (123)	360 (112)	246 (52)	103		3.6	98.1%
	地理学科	令和元	532 (262)	525 (256)	228 (37)	119	130	4.1	91.5%
		平成30	453 (213)	446 (209)	268 (59)	141	130	3.5	108.5%
		平成29	439 (223)	437 (221)	307 (90)	137	130	3.4	105.4%
		平成28	414 (184)	401 (174)	341 (103)	146	130	3.2	112.3%
		平成27	366 (157)	365 (155)	337 (114)	117	130	2.8	90.0%
		平均	441 (208)	435 (203)	296 (81)	132		3.4	101.5%
心理学部	臨床心理学科	令和元	1,186 (658)	1,172 (645)	259 (58)	164	170	7.0	96.5%
		平成30	914 (441)	895 (433)	306 (59)	180	170	5.4	105.9%
		平成29	973 (507)	954 (491)	318 (89)	174	150	6.5	116.0%
		平成28	851 (416)	839 (408)	290 (73)	171	150	5.7	114.0%
		平成27	873 (412)	859 (401)	300 (67)	164	150	5.8	109.3%
		平均	959 (487)	944 (476)	295 (69)	171		6.1	108.3%
	対人・社会心理学科	令和元	1,204 (738)	1,183 (724)	184 (50)	107	115	10.5	93.0%
		平成30	898 (498)	881 (485)	245 (68)	127	115	7.8	110.4%
		平成29	896 (574)	878 (560)	233 (100)	108	100	9.0	108.0%
		平成28	732 (439)	721 (431)	237 (78)	120	100	7.3	120.0%
		平成27	702 (420)	696 (412)	232 (74)	109	100	7.0	109.0%
		平均	885 (496)	881 (489)	229 (66)	105		8.3	108.1%
全体	令和元	8,308	8,167	3,423	2,367	2,565	3.2	92.3%	
	平成30	7,389	7,265	3,866	2,608	2,565	2.9	101.7%	
	平成29	7,155	7,055	3,930	2,548	2,355	3.0	108.2%	
	平成28	6,603	6,510	4,202	2,628	2,355	2.8	111.6%	
	平成27	6,553	6,464	4,197	2,483	2,355	2.8	105.4%	
	平均	7,202	7,092	3,924	2,527		2.9	103.8%	

※カッコ内の数値は各人数の内に含まれる他学科併願者数

【資料 7. 既設学科における過去5年間の入学定員充足率の推移】

既設学科における過去5年間の入学定員充足率の推移

学部名	学科名	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	平均
仏教学部	宗学科	0.7	0.9	0.5	0.5	0.9	0.7
	仏教学科	0.7	1.0	1.4	1.6	1.0	1.1
文学部	哲学科	1.0	1.3	1.0	0.9	0.8	1.0
	史学科	1.0	1.0	1.0	1.2	0.7	0.9
	社会学科	1.0	1.1	1.0	1.0	0.7	0.9
	文学科	1.1	1.1	1.1	1.1	0.7	1.0
経済学部	経済学科	1.0	1.1	1.0	0.9	0.9	0.9
経営学部	経営学科	1.0	1.1	1.1	0.9	1.0	1.0
法学部	法学科	1.1	1.1	1.0	0.9	0.9	1.0
社会福祉学部	社会福祉学科	0.8	0.9	1.1	1.1	0.9	0.9
	子ども教育福祉学科	1.1	1.0	1.1	1.0	0.9	1.0
地球環境科学部	環境システム学科	1.1	1.2	0.8	0.8	0.8	0.9
	地理学科	0.9	1.1	1.0	1.0	0.9	0.9
心理学部	臨床心理学科	1.0	1.1	1.1	1.0	0.9	1.0
	対人・社会心理学科	1.0	1.2	1.0	1.1	0.9	1.0
全体		1.0	1.1	1.0	1.0	0.9	1.0

【資料 8. 既設学科における過去 5 年間の志願者数および志願倍率】

既設学科における過去5年間の志願者数および志願倍率

学部名	学科名	入学定員	志願者数及び志願倍率					
			平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	平均
仏教学部	宗学科	50	89	158	172	121	267	161
		50	(1.8)	(3.2)	(3.4)	(2.4)	(5.3)	(3.2)
	仏教学科	55	223	257	328	386	690	377
		55	(4.1)	(4.7)	(6.0)	(7.0)	(12.5)	(6.9)
文学部	哲学科	90	498	448	795	627	982	670
		95	(5.5)	(5.0)	(8.8)	(6.6)	(10.3)	(7.3)
	史学科	140	1,033	1,245	1,280	1,304	1,787	1,330
		155	(7.4)	(8.9)	(9.1)	(8.4)	(11.5)	(9.1)
	社会学科	140	1,024	947	1,257	1,274	1,503	1,201
		155	(7.3)	(6.8)	(9.0)	(8.2)	(9.7)	(8.2)
	文学科	140	1,127	1,078	1,142	1,163	1,476	1,197
		155	(8.1)	(7.7)	(8.2)	(7.5)	(9.5)	(8.2)
経済学部	経済学科	360	2,098	1,754	2,954	2,764	3,221	2,558
		400	(5.8)	(4.9)	(8.2)	(6.9)	(8.1)	(6.8)
経営学部	経営学科	300	1,788	1,830	2,330	2,159	2,070	2,035
		330	(6.0)	(6.1)	(7.8)	(6.5)	(6.3)	(6.5)
法学部	法学科	300	1,645	1,933	2,111	1,473	2,364	1,905
		340	(5.5)	(6.4)	(7.0)	(4.3)	(7.0)	(6.0)
社会福祉学部	社会福祉学科	200	565	564	758	746	1,078	742
		200	(2.8)	(2.8)	(3.8)	(3.7)	(5.4)	(3.7)
	子ども教育 福祉学科	100	398	365	400	372	503	408
		100	(4.0)	(3.7)	(4.0)	(3.7)	(5.0)	(4.1)
地球環境科学部	環境システム 学科	100	701	699	627	564	676	653
		115	(7.0)	(7.0)	(6.3)	(4.9)	(5.9)	(6.2)
	地理学科	130	466	530	579	632	779	597
		130	(3.6)	(4.1)	(4.5)	(4.9)	(6.0)	(4.6)
心理学部	臨床心理学科	150	1,339	1,339	1,458	1,419	2,003	1,512
		170	(8.9)	(8.9)	(9.7)	(8.3)	(11.8)	(9.5)
	対人・社会 心理学科	100	1,046	1,090	1,384	1,364	1,911	1,359
		115	(10.5)	(10.9)	(13.8)	(11.9)	(16.6)	(12.7)
全体		2,355	14,040	14,237	17,575	16,368	21,310	16,706
		2,565	(6.0)	(6.0)	(7.5)	(6.4)	(8.3)	(6.8)

※「入学定員」の上段の数値は平成 29 年以前の数値、下段の数値は平成 30 年以降の数値

※「志願者数及び志願倍率」の上段の数値は志願者数、下段の数値は志願倍率

【資料 9. 本学入学者における他大学の志望状況】

本学入学者における他大学の志望状況

	第1希望	第2希望	第3希望	合計
東洋大学	9	13	6	28
法政大学	10	4	1	15
日本大学	2	8	1	11
駒澤大学	3	2	5	10
青山学院大学	7	3		10
専修大学	4	1	3	8
明治大学	7		1	8
学習院大学	2	3	1	6
東京経済大学	3		3	6
國學院大学	2	2	2	6
獨協大学	2	3		5

競合校における志願状況

		志願者数					合格者数					平均 合格倍率
		平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	
青山学院大学	一般	45,544	46,537	47,751	49,855	46,287	7,745	7,181	6,028	5,556	6,187	7.3
	セ	14,194	13,313	13,215	13,050	14,117	2,340	2,323	2,036	1,757	1,949	6.6
学習院大学	一般	11,798	17,930	18,828	20,447	19,143	4,047	4,498	4,026	3,526	3,756	4.5
國學院大学	一般	14,484	14,758	16,854	16,766	17,017	3,106	3,031	2,810	2,802	2,805	5.5
	セ	5,991	7,268	8,164	7,991	12,454	1,933	1,639	1,483	1,601	1,206	5.7
駒澤大学	一般	20,700	21,844	24,502	25,095	26,517	6,380	6,186	5,589	4,719	4,583	4.5
	セ	10,875	16,904	17,164	19,720	22,198	3,654	4,400	3,980	3,831	2,510	5.0
専修大学	一般	20,382	24,589	26,781	28,649	34,472	6,819	6,545	5,307	4,422	4,633	5.1
	セ	10,942	11,947	17,681	17,112	21,729	4,052	4,176	4,585	4,015	3,722	3.9
東京経済大学	一般	5,592	5,973	7,063	8,223	8,530	1,783	1,564	1,366	1,187	1,198	5.2
	セ	5,702	5,458	5,879	5,366	4,736	2,248	1,743	1,232	836	701	4.7
東洋大学	一般	42,022	45,745	54,204	60,922	68,618	10,873	10,187	9,462	8,522	11,598	5.4
	セ	41,524	39,141	46,976	54,519	53,392	13,560	13,751	15,212	12,982	12,270	3.5
獨協大学	一般	9,246	9,893	10,719	12,463	11,893	3,507	3,465	3,444	2,442	2,369	3.7
	セ	4,752	8,347	8,448	11,022	13,071	2,008	2,823	2,713	2,443	2,919	3.5
日本大学	一般	61,866	69,866	78,325	83,013	73,880	17,308	18,035	18,589	19,411	20,132	3.9
	セ	32,507	34,692	34,258	32,167	26,973	10,936	11,482	10,744	9,854	8,557	3.1
法政大学	一般	65,007	70,450	80,701	81,758	75,199	12,203	13,743	11,808	9,930	10,729	6.5
	セ	28,979	31,526	38,505	40,741	40,248	7,346	9,396	9,373	7,618	7,167	4.5
明治大学	一般	73,688	78,330	80,441	85,038	80,033	15,939	15,404	13,989	13,923	14,090	5.4
	セ	32,014	30,170	33,066	35,241	31,722	8,970	8,740	8,865	7,293	7,950	3.9

【資料 11. 地域別人口減少率および志願者数の減少予測】

地域別人口減少率および志願者数の減少予測（実人数に基づく）

	過去5年平均			対2015年人口減少比率 (D)			減少後推定志願者数 (E: C×D)		
	実志願者数 (A)	構成率 (B)	志願者数 (C: A×B)	令和7	令和12	令和17	令和7	令和12	令和17
北海道	7202	1.3%	94	0.84	0.78	0.72	79	73	68
東北		2.9%	211	0.79	0.71	0.65	166	150	138
関東		57.8%	4,164	0.90	0.84	0.80	3,748	3,485	3,321
東京		24.6%	1,772	0.97	0.99	0.96	1,728	1,749	1,704
中部		7.3%	525	0.87	0.81	0.77	459	424	402
近畿		0.9%	68	0.86	0.80	0.75	59	54	51
中国		0.8%	59	0.88	0.84	0.80	52	49	47
四国		0.7%	48	0.83	0.77	0.72	40	37	35
九州		2.0%	142	0.91	0.89	0.84	129	126	119
その他		1.6%	118	0.87	0.82	0.78	104	98	92
●合計							6,564	6,244	5,977

※国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）』を用いて推計。

過去5年間の受験率および歩留率（実人数に基づく）

		平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	平均
受験率	志願者数	6,553	6,603	7,155	7,389	8,308	7,202
	受験者数	6,464	6,510	7,055	7,265	8,167	7,092
	受験率	98.6%	98.6%	98.6%	98.3%	98.3%	98.5%
歩留率	合格者数	4,197	4,202	3,930	3,866	3,423	3,924
	入学者数	2,483	2,628	2,548	2,608	2,367	2,527
	入学率	59.2%	62.5%	64.8%	67.5%	69.1%	64.4%

オープンキャンパス実施状況

	平成27	平成28	平成29	平成30	平均
品川	10,518	11,020	11,242	12,364	11,286
熊谷	2,146	2,075	2,343	2,261	2,206
合計	12,664	13,095	13,585	14,625	13,492

令和2(2020)年度内実施予定の各種講座・セミナー

対象	形式	内容	実施予定時期
一般	公開講座等	保護者層・一般へのDS啓蒙と新学部の構想浸透を兼ねた本学教員と外部スピーカーによる公開講座。	6月(2019年度延期分)、10~11月、3月
受験生	高校生向け講座	DS啓蒙と新学部の構想浸透を兼ねた地域の(中)高校生向けの講座。	6月~10月
	オープンキャンパス	オープンキャンパス特設コーナー	6月~10月
高校予備校	新聞社タイアップセミナー	新聞社タイアップの上、他大学との共催に基づく、新学部の構想浸透を図るための説明会。	5月(2019年度延期分)、3月
	セミナー	比較的新しい分野であるDSと受験生へのアプローチについて、教員等が知りたい知識・情報の提供・発信のためのセミナー。	4月(2019年度延期分)、3月
メディア	メディア向けセミナー	社会的関心分野であるDSについて、メディア関係者との連携関係を持ち、以後のDS啓蒙と新学部の構想浸透につなげる。	9~10月

※「延期分」とあるものは、当初2019年度実施を予定していたが、コロナウィルス蔓延防止のため実施を見送ったもの

データサイエンス学部構想に関する特設ページ閲覧データ

		1月	2月
ページビュー	大学全体	505,008	529,906
	DS学部	11,602	30,220
	割合	2.3%	5.7%
ユニークビュー	大学全体	349,169	366,505
	DS学部	10,187	26,059
	割合	2.9%	7.1%
大学全体におけるDS学部の閲覧数順位		4	3

本学独自の奨学金制度および平成30 (2018)年度の給付実績

奨学金の種類	目的	金額 全て給付型	採用人数 平成30年度	総額
● 成績優秀者の学業奨励を目的とした奨学金				
特別奨学生	入試成績上位者	400,000	24	9,600,000
橘奨学生第1種	成績優秀者：学部生	400,000	45	18,000,000
	成績優秀者：大学院生	500,000	10	5,000,000
橘奨学生第2種	成績優秀者	200,000	20	4,000,000
大学院進学奨学金	大学院進学予定者	400,000	9	3,600,000
スポーツ奨学金	スポーツ活動の成績優秀な者	変動型	89	69,593,000
聖飢法師奨学金	仏教学を学ぶ外国籍学生	400,000	1	400,000
● 経済的困窮者の学業継続支援を目的とした奨学金				
学部橘経済支援奨学生	経済的困窮者	353,000	62	21,886,000
学業継続支援奨学金	授業料支弁困難者：学部生	176,500	13	2,294,500
合計			273	134,373,500

立正大学に関するアンケート

調査概要	
■ 調査票タイトル	立正大学に関するアンケート
■ 調査方法	インターネットリサーチ
■ 実施機関	株式会社マクロミル
■ 実施期間	2020年08月13日(木)～2020年08月14日(金)
■ 調査対象	過去3年間に少なくとも正規社員を1名以上採用している企業の人事担当者および経営者
■ 有効回答数	516社

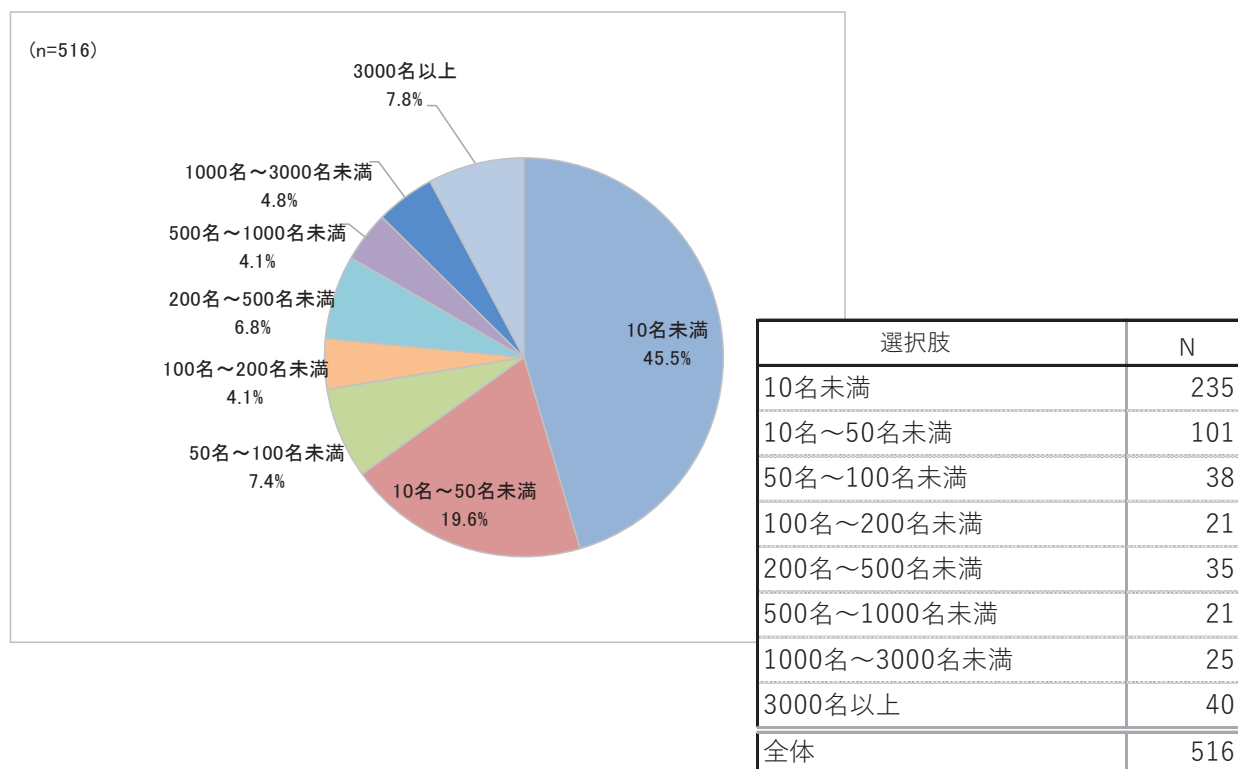
Q1. 貴社・貴団体の本社（本部）所在地について教えてください。

都道府県	N	都道府県	N	都道府県	N	都道府県	N
1 北海道	31	13 東京都	158	25 滋賀県	3	37 香川県	4
2 青森県	1	14 神奈川県	34	26 京都府	20	38 愛媛県	8
3 岩手県	2	15 新潟県	6	27 大阪府	49	39 高知県	3
4 宮城県	5	16 富山県	0	28 兵庫県	19	40 福岡県	15
5 秋田県	7	17 石川県	2	29 奈良県	3	41 佐賀県	2
6 山形県	1	18 福井県	1	30 和歌山県	4	42 長崎県	6
7 福島県	3	19 山梨県	0	31 鳥取県	1	43 熊本県	2
8 茨城県	9	20 長野県	5	32 島根県	1	44 大分県	4
9 栃木県	4	21 岐阜県	5	33 岡山県	7	45 宮崎県	1
10 群馬県	4	22 静岡県	9	34 広島県	7	46 鹿児島県	1
11 埼玉県	19	23 愛知県	29	35 山口県	4	47 沖縄県	1
12 千葉県	13	24 三重県	2	36 徳島県	1	合計	516

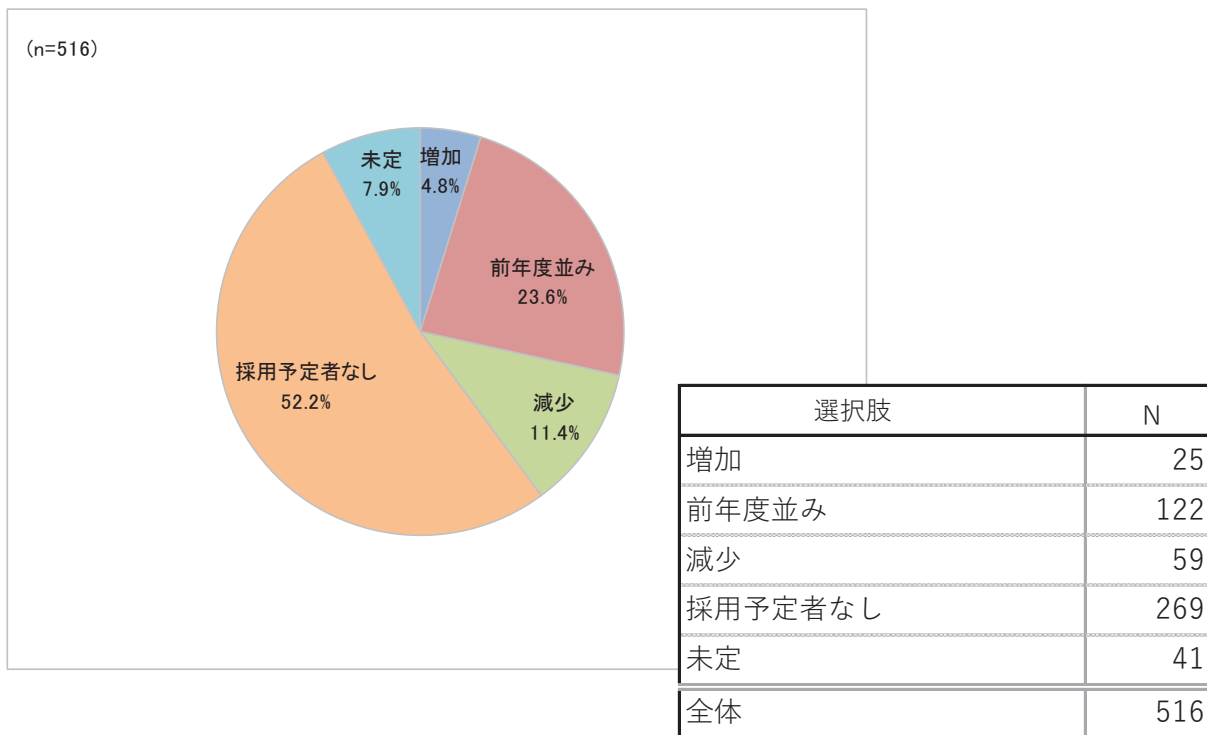
Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。（単一回答）

業種	N	%
農林漁業・鉱業	3	0.6%
建設業	57	11.0%
製造業	67	13.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	8	1.6%
情報通信業	29	5.6%
運輸業	17	3.3%
卸売業	47	9.1%
小売業	35	6.8%
金融・保険業	22	4.3%
不動産業	48	9.3%
飲食サービス業	16	3.1%
宿泊業	4	0.8%
医療・福祉業	33	6.4%
対個人サービス業	32	6.2%
対事業所サービス業	66	12.8%
その他	32	6.2%
全体	516	100.0%

Q3. 貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。

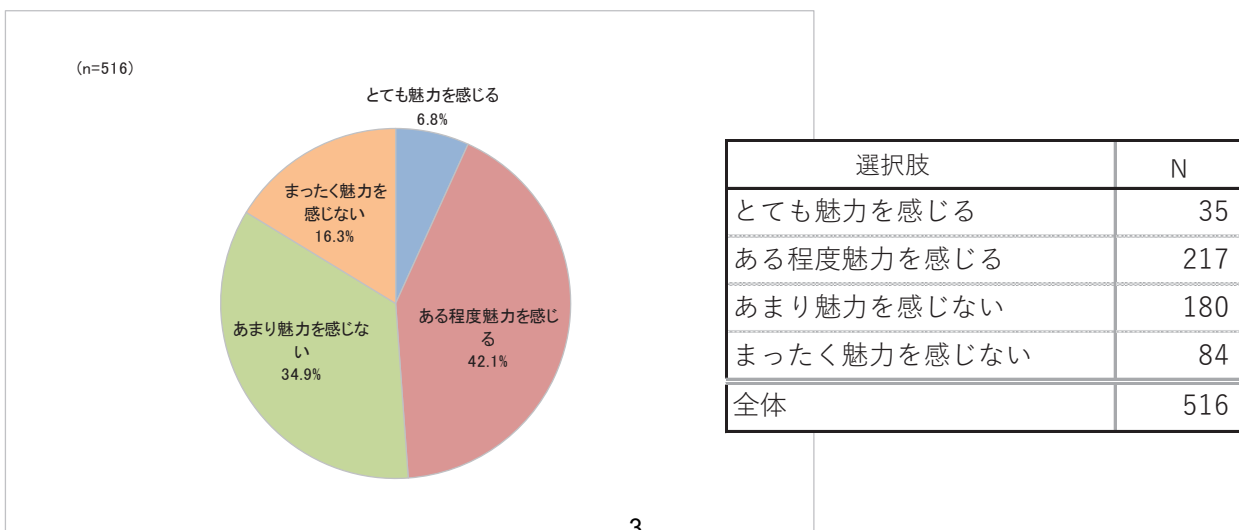


Q4. 貴社・貴団体の2020年度における新規大卒者の採用予定数は、2019年度と比較していかがですか。



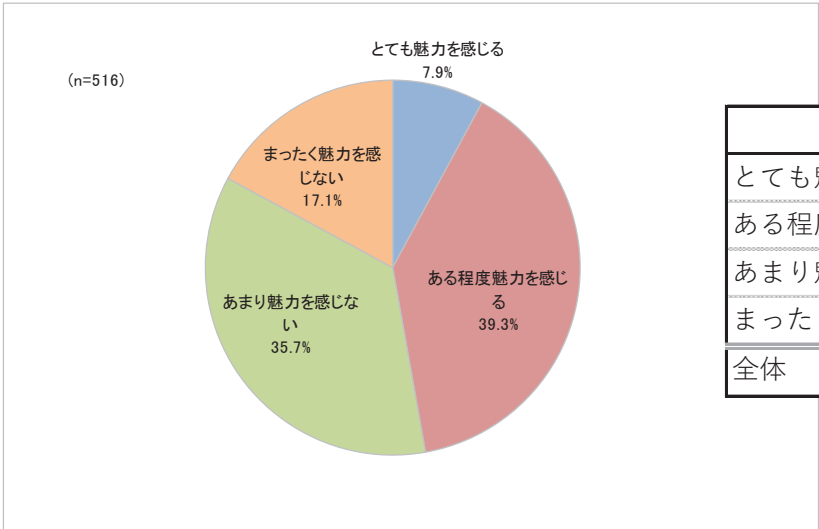
Q5. 立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか

特色①：文理融合型の立正大学データサイエンス学部では、先鋭的なデータアナリストではなく、データサイエンスを広く経済社会に応用し、ビジネス等の現場で新たな価値を生み出す即戦力となる人材を養成します。具体的には、一般企業の営業や広報、あるいは官公庁や観光サービス業の現場で、データ分析を通じて価値ある情報を提供できる人材を育成することを目指しています。



Q6. 立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか

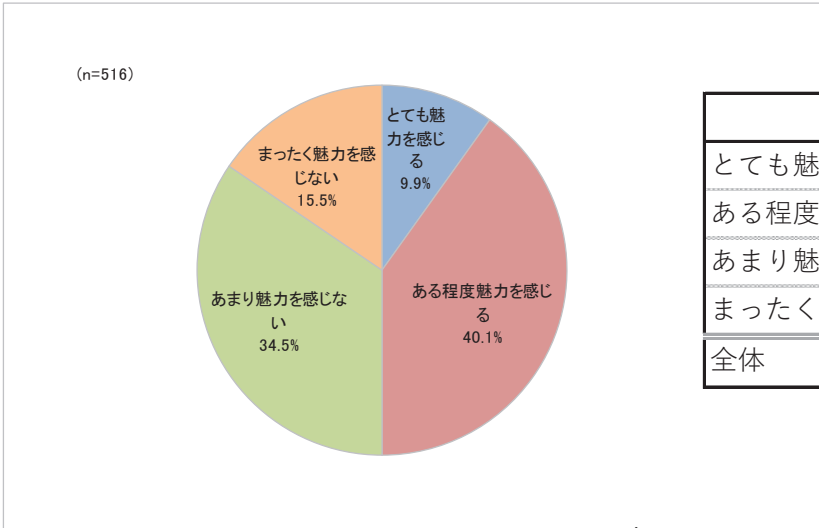
特色②：立正大学データサイエンス学部では、データサイエンスの基礎となる、数学、統計学、情報科学等を教養的科目として学んだ後、学生が選んだ専門分野として「ビジネス」・「観光」・「社会」・「スポーツ」の4分野にわたる応用科目を設置し、データサイエンス×専門分野を学ぶことにより、価値創造に貢献する人材を育成していきます。



選択肢	N
とても魅力を感じる	41
ある程度魅力を感じる	203
あまり魅力を感じない	184
まったく魅力を感じない	88
全体	516

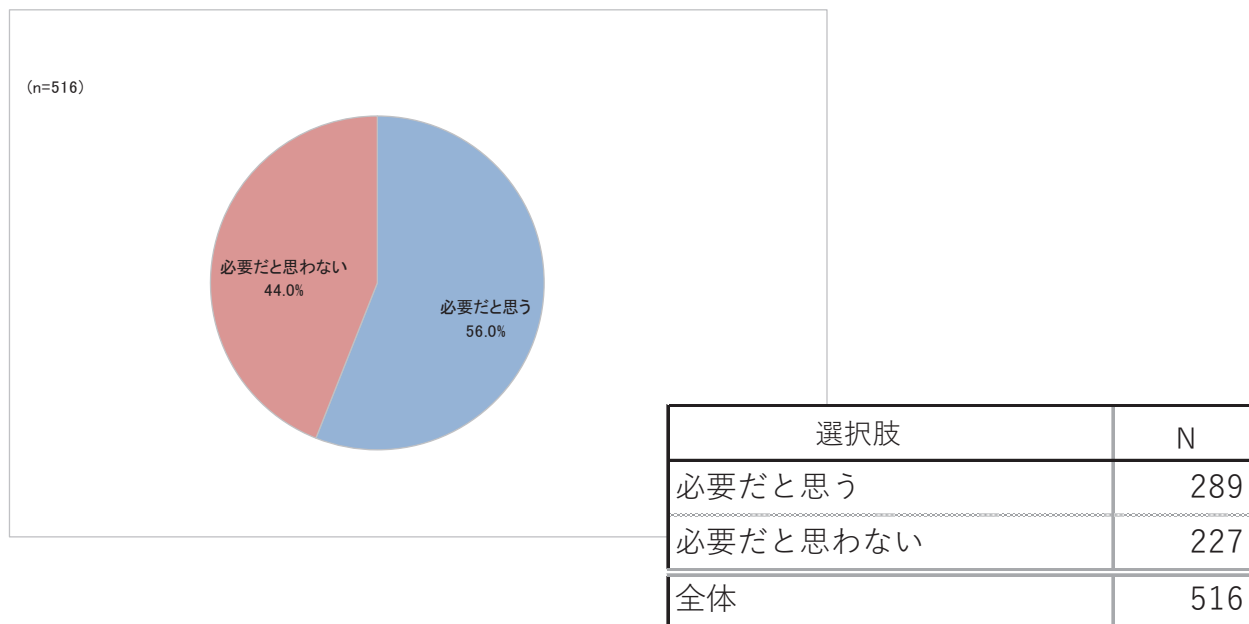
Q7. 立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか

特色③：立正大学データサイエンス学部では、それぞれの分野で十分な研究実績のある教員による指導に加えて、実業界で実際にデータを用いたビジネス・モデルを展開している企業や組織との連携によるインターンシップやフィールドワークなどを通して、主体的に課題を発見し、それに対する解決策を提案することができるような人材を養成します。

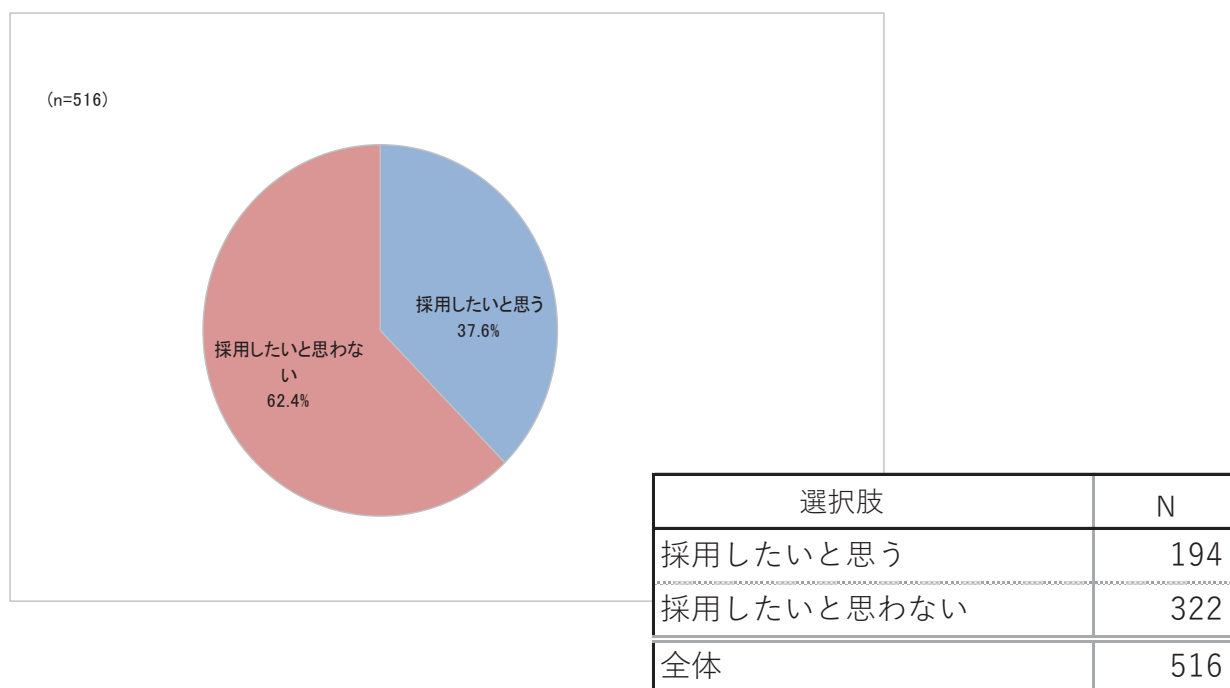


選択肢	N
とても魅力を感じる	51
ある程度魅力を感じる	207
あまり魅力を感じない	178
まったく魅力を感じない	80
全体	516

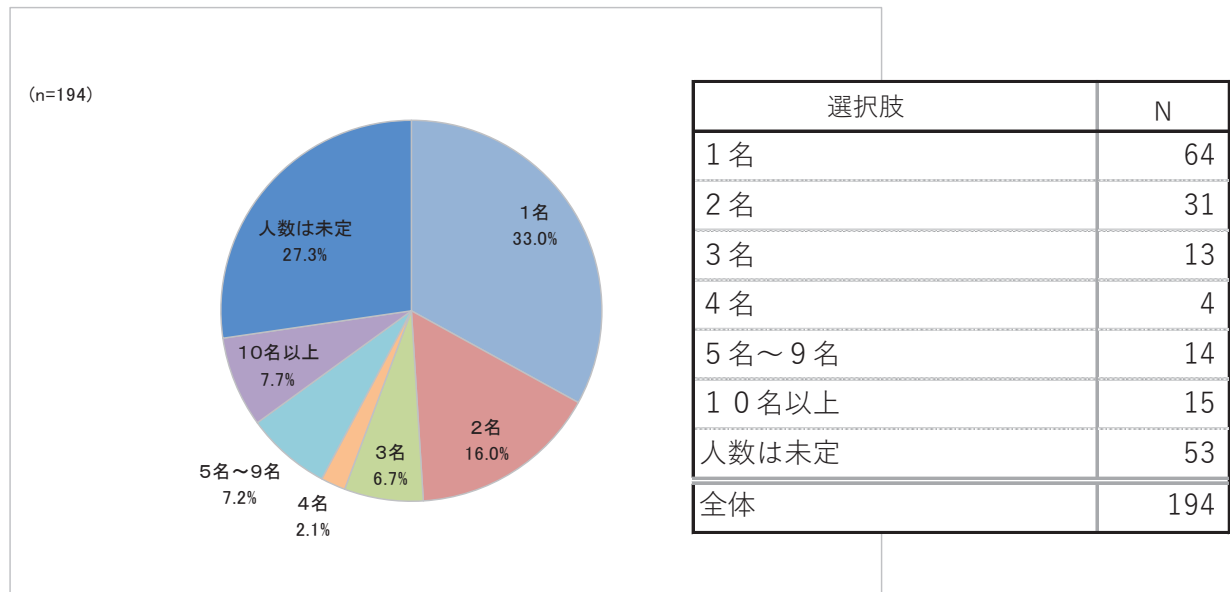
Q8. 貴社・貴団体（ご回答者）は、これからの社会にとって立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）は必要だと思いますか。



Q9. 貴社・貴団体では、立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。



Q10. 「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考
える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回
答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。なお、この
回答は実際の採用人数をお約束いただくものではありません。



立正大学に関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

 「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力をお願いします。

 アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

C1

100%

立正大学では2021年4月より、「データサイエンス学部」（仮称）を
新設することを構想しています。

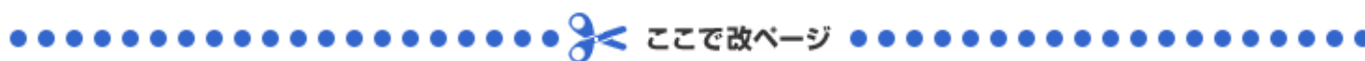
このアンケートは経営者および採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、
より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、
上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、
個人や個別企業を特定できるような情報が外部に出ることは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

【データサイエンス学部特設サイト：<http://www.ris.ac.jp/ds/>】

※このアンケートや同封した書面に記載されている
「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）
に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。



Q1

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

【資料16. 企業対象データサイエンス学部に関するアンケート】

貴社・貴団体の本社（本部）所在地について教えてください。

例：東京都品川区、埼玉県熊谷市、神奈川県中郡大磯町

★ 必須回答

▲ とじる

都道府県

市区町村



Q2

貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。

◎ 単一回答 ★ 必須回答

① 農林漁業・鉱業

② 建設業

③ 製造業

④ 電気・ガス・熱供給・水道業

⑤ 情報通信業

⑥ 運輸業

⑦ 卸売業

⑧ 小売業

⑨ 金融・保険業

⑩ 不動産業

⑪ 飲食サービス業

⑫ 宿泊業

⑬ 医療・福祉業

⑭ 対個人サービス業

⑮ 対事業所サービス業

⑯ その他



Q3

貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。

○ 単一回答 ★ 必須回答

- ① 10名未満
- ② 10名～50名未満
- ③ 50名～100名未満
- ④ 100名～200名未満
- ⑤ 200名～500名未満
- ⑥ 500名～1000名未満
- ⑦ 1000名～3000名未満
- ⑧ 3000名以上



Q4

貴社・貴団体の2020年度における新規大卒者の採用予定数は、2019年度と比較していかがですか。（該当するもの1つにチェック）

○ 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① 増加
- ② 前年度並み
- ③ 減少
- ④ 採用予定者なし
- ⑤ 未定



Q5

ここからは、2021年4月開設を目指す立正大学「データサイエンス学部」についてお伺いいたします。

立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか。（それぞれ該当するもの1つにチェック）

特色【1】

文理融合型の立正大学データサイエンス学部では、先鋭的なデータアナリストではなく、データサイエンスを広く経済社会に応用し、ビジネス等の現場で新たな価値を生み出す即戦力となる人材を養成します。

具体的には、一般企業の営業や広報、あるいは官公庁や観光サービス業の現場で、データ分析を通じて価値ある情報を提供できる人材を育成することを目指しています。

◎ 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① とても魅力を感じる
- ② ある程度魅力を感じる
- ③ あまり魅力を感じない
- ④ まったく魅力を感じない



Q6

立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか。（それぞれ該当するもの1つにチェック）

特色【2】

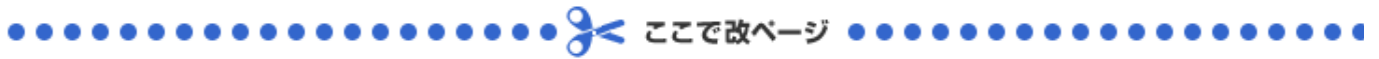
立正大学データサイエンス学部では、データサイエンスの基礎となる、数学、統計学、情報科学等を教養的科目として学んだ後、学生が選んだ専門分野として「ビジネス」・「観光」・「社会」・「スポーツ」の4分野にわたる応用科目を設置し、データサイエンス×専門分野を学ぶことにより、価値創造に貢献する人材を育成していきます。

◎ 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① とても魅力を感じる

- ② ある程度魅力を感じる
- ③ あまり魅力を感じない
- ④ まったく魅力を感じない



Q7

立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか。（それぞれ該当するもの1つにチェック）

特色【3】

立正大学データサイエンス学部では、それぞれの分野で十分な研究実績のある教員による指導に加えて、実業界で実際にデータを用いたビジネス・モデルを展開している企業や組織との連携によるインターンシップやフィールドワークなどを通して、主体的に課題を発見し、それに対する解決策を提案することができるような人材を養成します。

◎ 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① とても魅力を感じる
- ② ある程度魅力を感じる
- ③ あまり魅力を感じない
- ④ まったく魅力を感じない



Q8

貴社・貴団体（ご回答者）は、これからの社会にとって立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）は必要だと思われませんか。（該当するもの1つにチェック）

◎ 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① 必要だと思う
- ② 必要だと思わない



Q9

貴社・貴団体では、立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。（該当するもの1つにチェック）

単一回答 必須回答

▲ とじる

- ① 採用したいと思う
- ② 採用したいと思わない



Q10

「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。なお、この回答は実際の採用人数をお約束いただくものではありません。

単一回答 必須回答

▲ とじる

- ① 1名
- ② 2名
- ③ 3名
- ④ 4名
- ⑤ 5名～9名
- ⑥ 10名以上
- ⑦ 人数は未定

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

送 信

【資料17. 学部設置要望書】

資料として要望書を添付

	企業・団体名等
1	一般社団法人 熊谷市観光協会
2	一般社団法人 五反田バレー
3	一般社団法人 さいしんコラボ産学官
4	一般社団法人 未来協育推進機構
5	NPO法人 ARUKAS KUMAGAYA
6	株式会社鹿島教育システム (M'sメディカルフィットネス)
7	株式会社GWC
8	株式会社ニセコリゾート観光協会
9	株式会社P I P O N
10	株式会社MATCHA
11	株式会社ユーフォリア
12	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
13	熊谷市
14	熊谷商工会議所
15	公益社団法人 国土緑化推進機構
16	日本オラクル株式会社
17	三菱UFJ信託銀行株式会社
18	明治安田生命保険相互会社
19	LINE Pay株式会社
20	レオス・キャピタルワークス株式会社

熊谷商工会議所加盟企業対象データサイエンス学部に関するアンケート

アンケート結果概要

データサイエンス学部の特色はどの程度魅力に感じますか。【価値創造の人材育成について】	選択肢	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	件数	7	13	3	0
	割合	30.4%	56.5%	13.0%	0.0%
データサイエンス学部の特色はどの程度魅力に感じますか。【データサイエンス×専門分野というダブルメジャーについて】	選択肢	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	件数	7	13	3	0
	割合	30.4%	56.5%	13.0%	0.0%
データサイエンス学部の特色はどの程度魅力に感じますか。【課題発見型の人材養成について】	選択肢	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	件数	7	14	2	0
	割合	30.4%	60.9%	8.7%	0.0%
データサイエンス学部を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。	選択肢	採用したいと思う		採用したいと思わない	
	件数	14		9	
	割合	60.9%		39.1%	
採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。	選択肢	10名	2名	1名	人数は未定
	件数	1	1	10	11
	割合	4.3%	4.3%	43.5%	47.8%



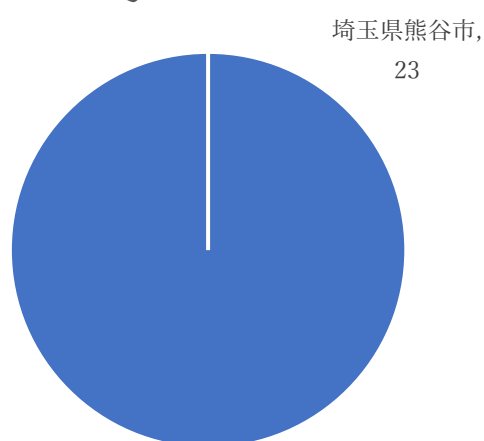
「立正大学に関するアンケート」結果

- 熊谷商工会議所を通じて案内を配布し、web サイトよりアンケートを実施
- 有効回答企業数は 23 社
- 調査票は p.9 以降に添付

Q1. 貴社・貴団体の本社（本部）所在地についてお教えてください。

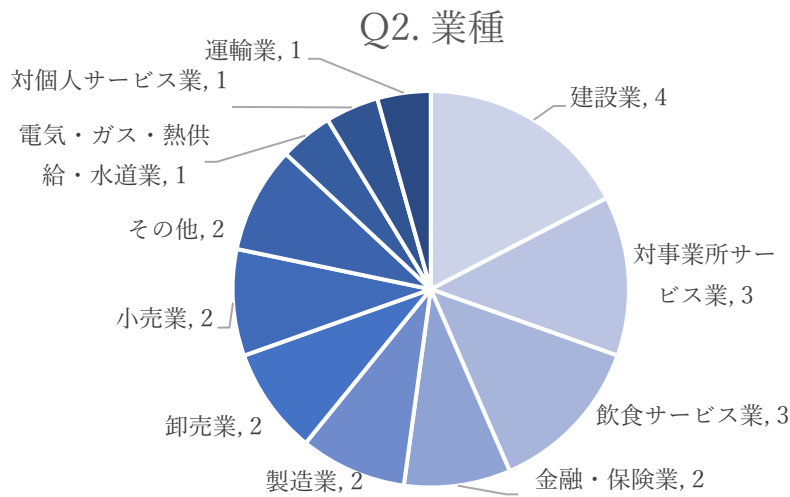
- 埼玉県熊谷市
- 埼玉県内で熊谷市外
- 関東地方で埼玉県外
- その他

Q1. 所在地



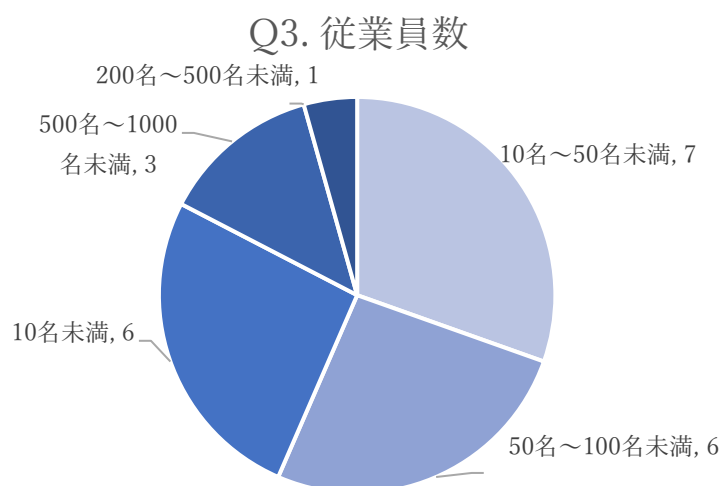
Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。

- | | |
|--|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 農林漁業・鉱業 | <input type="checkbox"/> 金融・保険業 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 不動産業 |
| <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 飲食サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 | <input type="checkbox"/> 宿泊業 |
| <input type="checkbox"/> 情報通信業 | <input type="checkbox"/> 医療・福祉業 |
| <input type="checkbox"/> 運輸業 | <input type="checkbox"/> 対個人サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 卸売業 | <input type="checkbox"/> 対事業所サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 小売業 | <input type="checkbox"/> その他 |



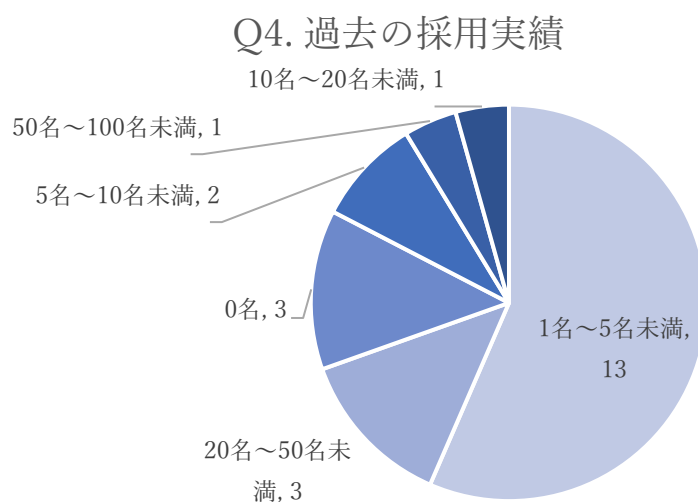
Q3. 貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。

- 10名未満
- 10名～50名未満
- 50名～100名未満
- 100名～200名未満
- 200名～500名未満
- 500名～1000名未満
- 1000名以上



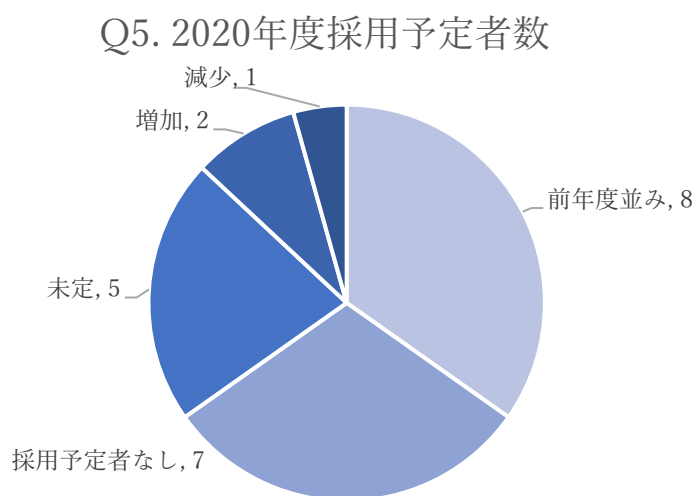
Q4. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

- 0名
- 1名～5名未満
- 5名～10名未満
- 10名～20名未満
- 20名～50名未満
- 50名～100名未満
- 100名以上



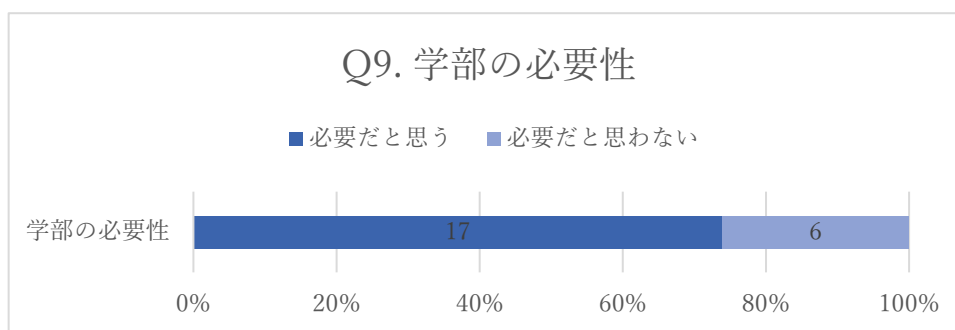
Q5. 貴社・貴団体の2020年度における新規大卒者の採用予定数は、2019年度と比較していかがですか。

- 増加
- 前年度並み
- 減少
- 採用予定者なし
- 未定



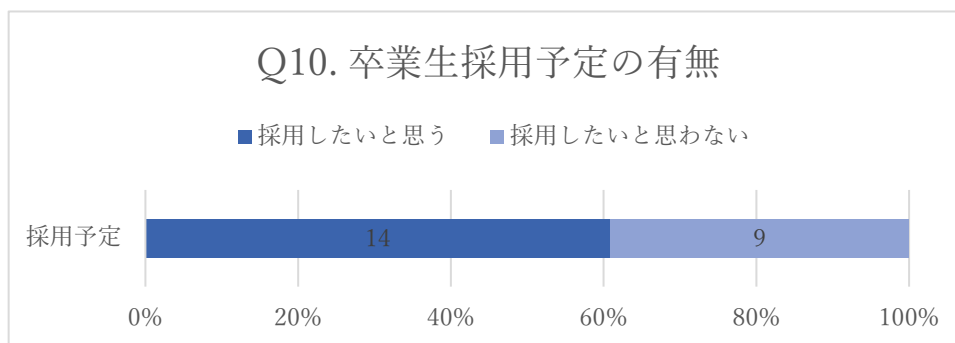
Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、これからの社会にとって立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）は必要だと思われませんか。

- 必要だと思う
- 必要だと思わない



Q10. 貴社・貴団体では、立正大学「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。

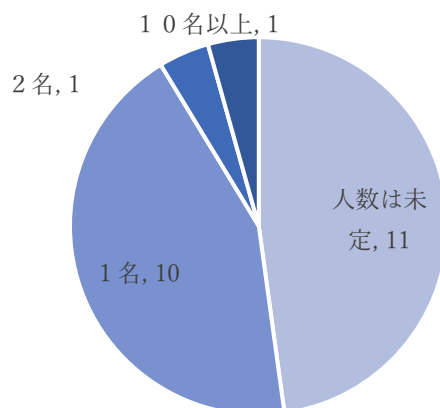
- 採用したいと思う
- 採用したいと思わない



Q11. 「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。なお、この回答は実際の採用人数をお約束いただくものではありません。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1名 | <input type="checkbox"/> 5～9名 |
| <input type="checkbox"/> 2名 | <input type="checkbox"/> 10名以上 |
| <input type="checkbox"/> 3名 | <input type="checkbox"/> 人数は未定 |
| <input type="checkbox"/> 4名 | |

Q11. 卒業生採用予定者数





立正大学に関するアンケート（調査票）

立正大学では 2021 年 4 月より、「データサイエンス学部」（仮称）を新設することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人や個別企業を特定できるような情報が外部に出ることは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

【データサイエンス学部特設サイト：<http://www.ris.ac.jp/ds/index.php>】

※このアンケートや同封した書面に記載されている「データサイエンス学部」（仮称、設置構想中）に関する事項はすべて 予定であり、内容が変更になる可能性があります。

※ はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. 貴社・貴団体の本社（本部）所在地についてお教えてください。

- 埼玉県熊谷市
- 埼玉県内で熊谷市外
- 関東地方で埼玉県外
- その他

Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。

- | | |
|--|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 農林漁業・鉱業 | <input type="checkbox"/> 金融・保険業 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 不動産業 |
| <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 飲食サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 | <input type="checkbox"/> 宿泊業 |
| <input type="checkbox"/> 情報通信業 | <input type="checkbox"/> 医療・福祉業 |
| <input type="checkbox"/> 運輸業 | <input type="checkbox"/> 対個人サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 卸売業 | <input type="checkbox"/> 対事業所サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 小売業 | <input type="checkbox"/> その他 |

Q3. 貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 10名未満 | <input type="checkbox"/> 200名～500名未満 |
| <input type="checkbox"/> 10名～50名未満 | <input type="checkbox"/> 500名～1000名未満 |
| <input type="checkbox"/> 50名～100名未満 | <input type="checkbox"/> 1000名以上 |
| <input type="checkbox"/> 100名～200名未満 | |

Q4. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 0名 | <input type="checkbox"/> 20名～50名未満 |
| <input type="checkbox"/> 1名～5名未満 | <input type="checkbox"/> 50名～100名未満 |
| <input type="checkbox"/> 5名～10名未満 | <input type="checkbox"/> 100名以上 |
| <input type="checkbox"/> 10名～20名未満 | |

Q5. 貴社・貴団体の2020年度における新規大卒者の採用予定数は、2019年度と比較していかがですか。

- 増加
- 前年度並み
- 減少
- 採用予定者なし
- 未定

※ ここからは、2021年4月開設を目指す立正大学「データサイエンス学部」についてお伺いいたします。

Q6. 立正大学「データサイエンス学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか。

特色①

文理融合型の立正大学データサイエンス学部では、先鋭的なデータアナリストだけではなく、データサイエンスを広く経済社会に応用し、ビジネス等の現場で新たな価値を生み出す即戦力となる人材を養成します。

具体的には、一般企業の営業や広報、あるいは官公庁や観光サービス業の現場で、データ分析を通じて価値ある情報を提供できる人材を育成することを目指しています。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

Q7. 立正大学「データサイエンス学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか。

特色②

立正大学データサイエンス学部では、データサイエンスの基礎となる、数学、統計学、情報科学等を教養的科目として学んだ後、学生が選んだ専門分野として「ビジネス」・「観光」・「社会」・「スポーツ」の4分野にわたる応用科目を設置し、データサイエンス×専門分野というダブルメジャーの形をとることにより、価値創造に貢献する人材を育成していきます。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

- Q8. 立正大学「データサイエンス学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか。

特色③

立正大学データサイエンス学部では、それぞれの分野で十分な研究実績のある教員による指導に加えて、実業界で実際にデータを用いたビジネス・モデルを展開している企業や組織との連携によるインターンシップやフィールドワークなどを通して、主体的に課題を発見し、それに対する解決策を提案することができるような人材を養成します。

- とても魅力を感じる
 - ある程度魅力を感じる
 - あまり魅力を感じない
 - まったく魅力を感じない
- Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、これからの社会にとって立正大学「データサイエンス学部」(仮称、設置構想中)は必要だと思われませんか。
- 必要だと思う
 - 必要だと思わない
- Q10. 貴社・貴団体では、立正大学「データサイエンス学部」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。
- 採用したいと思う
 - 採用したいと思わない
- Q11. 「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。なお、この回答は実際の採用人数をお約束いただくものではありません。
- 1名
 - 2名
 - 3名
 - 4名
 - 5~9名
 - 10名以上
 - 人数は未定

※ 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

全国および本学の求人・就職状況の推移

		平成26	平成27	平成28	平成29	平成30
全国	求人総数	682,500	719,300	734,300	755,100	813,500
	就職希望者	423,200	416,700	421,900	423,200	432,200
	求人倍率	1.61	1.73	1.74	1.78	1.88
立正大学	求人件数	11,367	12,836	14,077	14,413	15,332
	就職率	94.9%	94.9%	95.9%	97.1%	97.1%